

令和 3 年度在宅医療・介護連携推進事業実績報告

NIIGATA

市報にいがた

編集・発行/新潟市広報課 〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1 ☎025-226-2089
※掲載情報は10月7日時点のものです

| 令和3年10月17日 | 第1・3週 日曜発行 |

*第2・4・5週の発行はありません。

目次 CONTENTS

| 特集 |

1・2 あなたと大切な人の「もしものとき」のために

3 にいがたCITY NOW

- 市職員の人事・給与などのあらまし

4 ● 9月議会定例会閉会
● 八区魅力発見⑩～東区編～
● 忘れのな拉致県民集会
● 市長とすまいるトーク

5 ● 弁当で地域のお店を応援
● にいがた2km

連載 輝く高校生

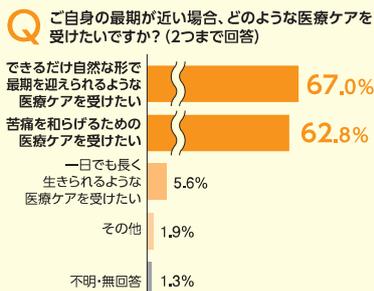
他3ページは区役所だより「情報ひろば」は別冊で発行しています



あなたと大切な人の「もしものとき」のために

命に関わる大きな病気やけがなど「もしものとき」に望む医療やケアについて前もって考え、話し合い、共有する取り組みを「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。今号では、ACPについて詳しく取り上げます。

問 地域医療推進課 (☎025-212-8018)



*新潟市医療に関する意識調査(令和2年9月)より

「もしものとき」について考えることは必ずしも楽しいことではないかもしれませんが、誰もが年を取り、命に関わる病気やけがをする可能性があります。いつか必ず来る最期を見据え、「どんな医療やケアを受けたいか」、「自分で意思決定できなくなったら誰に委ねるか」などを考えておくことは、自分の希望に沿った生活を送るためにも大切なことです。さらに、一度決めたままにしておくのではなく、心身の状態に応じて繰り返し考え、周りの人とコミュニケーションを取ることも大事です。人生の最終段階をより自分らしいものにするために、ACPについて考えてみませんか。

元氣な頃から話し合うことが大切

このような状況を避けるためには、自分に「もしものこと」が起きたときに受けたい、受けたくない医療や介護などについて、元氣な頃から事前に考え、家族や大切な人と話し合い、お互いの思いを共有しておくことが重要です。この考え方を「ACP」といいます。ACPは決して誰かに強制されて行うものではありません。また、「もしものとき」について考えることは必ずしも楽しいことではないかもしれませんが、誰もが年を取り、命に関わる病気やけがをする可能性があります。いつか必ず来る最期を見据え、「どんな医療やケアを受けたいか」、「自分で意思決定できなくなったら誰に委ねるか」などを考えておくことは、自分の希望に沿った生活を送るためにも大切なことです。さらに、一度決めたままにしておくのではなく、心身の状態に応じて繰り返し考え、周りの人とコミュニケーションを取ることも大事です。人生の最終段階をより自分らしいものにするために、ACPについて考えてみませんか。

人生の最期を自分らしく



新潟市民病院 救命救急・循環器病・脳卒中センターセンター長 廣瀬 保夫さん



にいがた ニギロ



新潟市のまちづくり



市の各種手続き、催し案内などは土・日曜、祝日も新潟市役所コールセンター

年中無休8:00~21:00

こたえてコール 025-243-4894

FAX 025-244-4894 Eメール 4894call@call.city.niigata.jp

新潟市の人口・世帯数 (9月末住民基本台帳人口。かつこ内は前月との比較) 人口/780,731人(-257) 男 375,992人(-134) 女 404,739人(-123) 世帯数/345,468(+46)

新潟県新型コロナ受診・相談センター

☎025-256-8275 (24時間対応。土・日曜、祝日も受け付け)

1 もし、生きることができる時間が限られているとしたら、あなたにとって大切なことはどんなことですか？(複数回答可)

- 家族や友人のそばにいること
- 仕事や社会的役割が続けられること
- 身の周りのことが自分でできること
- できる限りの治療が受けられること
- 家族の負担にならないこと
- 今は分からない
- その他()
- 少しでも長く生きること
- 好きなことができること
- 一人の時間が保てること
- 自分が経済的に困らないこと
- 家族が経済的に困らないこと

2 もし、治らない病気になったり気持ちを伝えられなくなったりしたら、どこでどんな治療やケアを受けて過ごしたいですか？

- 1) 痛みや苦痛 できるだけ抑えてほしい 自然のままでもいいについて 今は分からない その他()
- 2) 過ごしたい 自宅 病院 施設 場所 今は分からない その他()

3 もし、治療やケアについて自分で決められなくなったら、代わりに誰に話し合ってほしいですか？

- 配偶者(夫・妻)
- 子ども・孫
- きょうだい
- 親戚(めい・おいなど)
- 友人・知人
- かかりつけ医
- 頼める人はいない
- その他()

4 これらの選択を希望した思いや理由を書いてみましょう

考えてみよう



これからのこと

今後の人生を豊かに自分らしく過ごすため、左のチェックシートを使って考えてみましょう。

チェックシートの使い方

- 気持ちが落ち着いているときにじっくりと時間をかけて考え、家族や大切な人と話し合いながら記入しましょう。
- 誰と話し合えばいいかわからない場合は、住んでいる地域の地域包括支援センターや民生委員に相談しましょう。
- 話し合った結果は、かかりつけ医やケアマネジャーなど医療・ケア関係者と共有しましょう。
- 「今はまだ考えたくない」、「知りたくない」という人は、無理に考えたり話したりする必要はありません。
- 一度決めたら変えられないものではありません。気持ちが変わったら、何度も繰り返し話し合いましょう。

「もしもシート」を活用しませんか

市民の皆さんがACPに取り組みきっかけとなるよう、「もしもシート」=左=を作成しました。家族や大切な人と一緒に活用してみませんか。 ※同シートは区役所健康福祉課、地域保健福祉センター、地域包括支援センターで配布。新潟市ホームページにも掲載



ACPについて一緒に考える

オンライン講座を開催

新潟市の地域医療を支える医師が、ACPについて経験談を交えながら分かりやすく説明します。 ※オンライン形式で実施

【期日・講師】12月4日(土)…下畑光輝さん(信楽園病院)▷12月18日(土)…坪野俊広さん(済生会新潟病院) 【時】14時半~16時

【場】総合保健医療センター(中央区紫竹山3) 【定】各日先着80人 ※「Zoom」により自宅などでも受講可(各日先着200人) 【料】無料

【申】10月21日(木)から新潟市ホームページで申し込み ※会場で受講する場合は市役所コールセンター(☎025-243-4894)でも申し込み可



▲スマートフォンはこちらから過去の講座の様子

もともと妻とは普段からお互いの「もしものとき」について話をしていました。3年前、妻にがんの転移が発覚したことをきっかけに、今後の過ごし方について改めて二人で話し合いました。妻は「最期の時は自宅で迎えたい」と希望しており、主治医や訪問医のアドバイスと協力を得て、これまで通り自宅で生活しながら療養を続けることにしました。娘たちとは治療方針で意見が食い違ってもありましたが、最後は妻の思いを尊重し、私たちの決断を受け入れてくれました。治療中、一時的な入院は程度があつたものの、住み慣れた自宅で家族そろって気兼ねなく生活することができました。体



▲小川さんと妻のなぎささん(左)(2019年5月、旅行先の韓国にて)

調に変化があればすぐに訪問医に対応していただける体制が整っていたので、安心して過ごせました。妻の調子が良い時には国内外へ何度も家族旅行に出掛けるなど、限られた時間を充実して送ることができました。妻は亡くなる前日まで自宅で普段通りに過ごし、昨年10月、穏やかに眠るように息を引き取りました。寂しいですが、残された人生にきちんと向き合っただけで後悔のない理想的な最期を迎えることができたと思っています。



小川英爾さん (西蒲区在住)

妻とACPに取り組み、自宅で穏やかな最期を迎える

※このガイドラインは市民へ配付しないでください

もしもシート ガイドライン

医療・介護専門職（説明者）用

メモ

もしものときのために

考えてみませんか？
話しあってみませんか？

今のこと・将来のこと
自分のこと・大切な人のこと

もしものときは、「子の迷惑になりたくない」と思っている親世代がいる一方、「親の思いや希望をできるだけ叶えたい」と思っている子世代も多いのです。

また、親と子の思いが同じでも、その他の家族や友人、医療・介護従事者など周りの人に自分の思いが伝わっていなかったために、思う通りにいかない場合もあります。

気持ちも状況によって変わります。一度伝えたら終わりではなく、気持ちが変わったらその都度、繰り返し話しあいましょう。

あなたは、もしものことを考えたことがありますか？

人は、いつ命に関わる大きな病気やケガをするかわかりません。しかし、もしものときに受けたい医療や介護について、自分で考えたり、家族と話しあったことがある人は少ないようです。

もしものときに慌てないように、元気な時から、家族や大切な人と思いを共有しておくことは大切です。

このシートをきっかけに、自分で、また、家族や友人、大切な人と考え、繰り返し話しあってみませんか？



【作成】 新潟市在宅医療・介護連携推進協議会

【発行】 新潟市保健衛生部地域医療推進課

このガイドラインは、医療・介護の専門職の皆さまが、「もしもシート」を市民に説明（配付）する際におさえていただきたいポイントなどについてまとめたものです。

元気なときから、もしものときのことを考え、話し合う『きっかけ』となるよう、令和2年3月にこのシートを作成しました。このシートをきっかけに、ACPが広く市民一人ひとりの生活の中に浸透していくよう、普及・啓発についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和3年9月 新潟市保健衛生部地域医療推進課

1. もしもシートの目的

- ・「もしも」の時、あわてないように、元気な時から、事前に考えたり、家族と話したりするための「きっかけづくり」のシート
- ・思いを記載するのが目的でなく、気軽に話ができることを考え作成したもの。
- ・自宅に戻ったら、「もしもシート」について家族や身近な人に伝えてほしい。また、これをきっかけに自分の思いや家族の思いを互いに伝え合ってほしい。

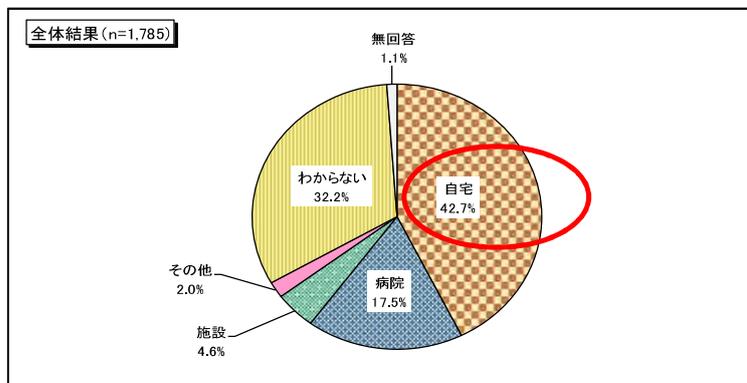
2. なぜ話し合うことが必要か

- ・誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性がある。
- ・命の危険が迫った状態になると、7割の方が医療や介護など自分で決めたり、望みを伝えたりすることができなくなると言われている。
- ・最期の時を、本人が納得して、また家族が後悔を残さず迎えることができるよう、元気なときから、医療や介護について自分が希望すること、大切にしている人生観などを、自分自身で前もって考えたり、周囲の信頼する人たちと繰り返し話し合い共有することは大切である。

3. 「もしもシート」を作成した経緯

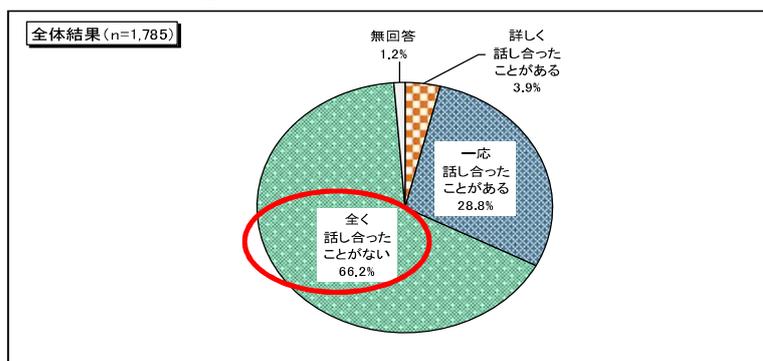
◆人生の終末期における医療・介護についての市民の意識について

「人生の最期をどこで迎えたいか」（H29年9月「新潟市医療に関する意識調査」）



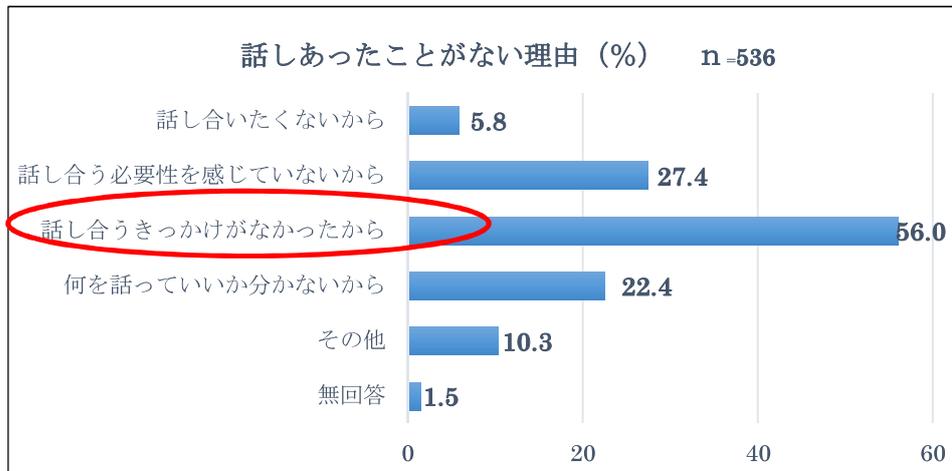
「自宅」4割強
「わからない」3割強

「自分の最期が近い時に受けたい医療、受けたくない医療について家族と詳しく話し合ったことがあるか」（同上）



「全く話し合ったことがない」7割弱

「話し合ったことがない理由」(H30年3月厚労省「人生の最終段階の医療に関する調査」)



「話し合うきっかけがなかったから」
半数以上

「きっかけ」が必要

4. 配布時や説明時の注意事項

- ・「もしもシート」を、説明なしで配布はせず、必ず「なぜ話し合うことが必要か」と「もしもシートの目的」について説明すること。
- ・考えたくない人は、無理に考えたり、話したりする必要はないことを伝える。
- ・今、決めなくてもよいし、わからなくても無理強いしない。
- ・本人または家族が現在療養中であつたり、過去に体験している方もいることを配慮して進めること。
- ・家族や身内がない人もいることから、家族だけでなく信頼できる人や大切な人といった方も含めて伝えること。

5. 伝えたいメッセージ

- ・「縁起でもない」「まだまだ元気だから」と様々な考えがあると思うが、必ずいつか直面することで、考えたり話し合うことが、今を大切に生きることにつながる。自分の人生観や価値観を周囲の人が理解し、安心した生活を送ることにもつながる。
- ・一度話したら終わりではなく、状況によって気持ちは変わる。気持ちが変わったらその都度、繰り返し話し合うことが必要。
- ・これらのことは決めることが大事なのではなく、繰り返し考え伝えることが大事。
- ・「子の迷惑になりたくない」と思っている親世代がいる一方、「親の思いや希望をできるだけ叶えたい」と思っている子世代も多い。ここでの話を子世代、若手に話してほしい。また、子世代や若手世代は、本人が話したときは、しっかり話を聞いてほしい。
- ・親と子の思いが同じでも、その他の家族や友人、医療介護関係者等に伝わっていないために思う通りにいかない場合もある。

- ・家族や周囲の人たちと、普段から「このこと」に限らず、色々な話題でコミュニケーションをとってほしい。どのように暮らし、どのように人生を全うするか、何を大切にしてきたか、身近な人へ伝えたり話を聴いたりする中で気づくこともあり、それがこれからの生き方につながるものであり、それぞれが共に分かり合っていくことが大切である。

6. 講座や研修会における進め方の例

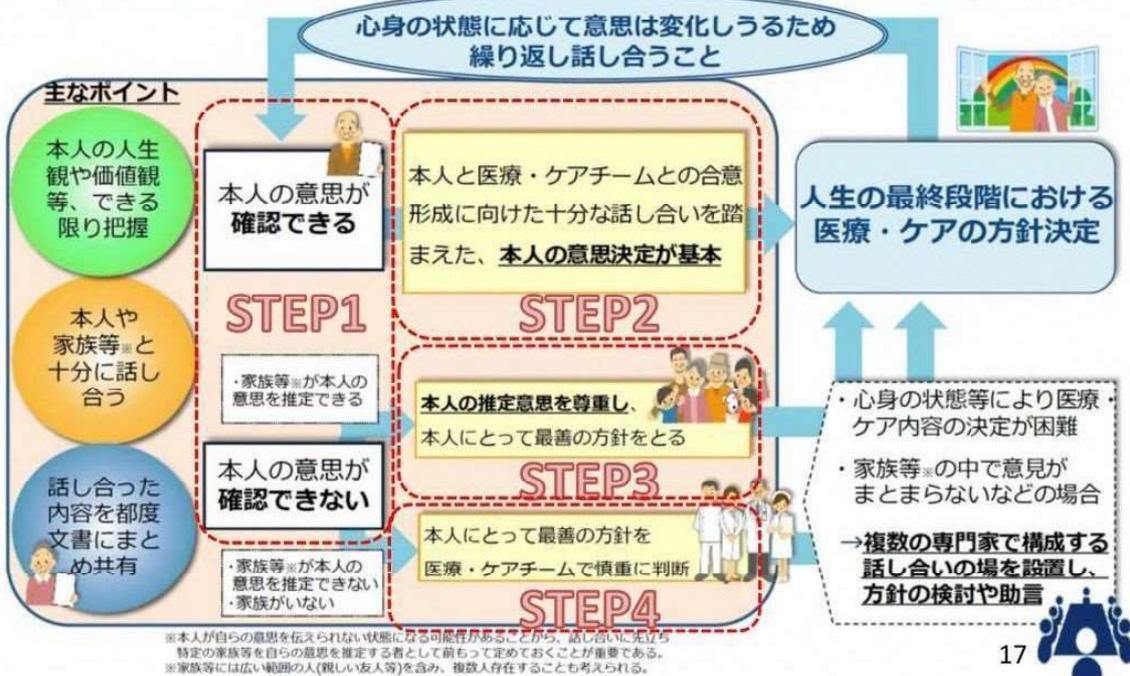
- ・最初の導入として、「(人生の) 最期に食べたいもの(飲みたいもの、過ごしたい場所、聞きたい音楽) はなんですか?」について投げかけ、隣同士などで、自分はどうか、その理由はなぜか、話し合ってもらおう。
- ・「テレビや映画の場面を通じて、「こんな最期だったら良いな(嫌だな)、こんな治療やケアを受けたいな(嫌だな)」と感じたことはありますか?」について投げかけ、隣同士などで、自分はどうか、その理由はなぜか、話し合ってもらおう。
- ・もしもシートの「もし、こんな時は?」の質問項目を一つ例に出し、事例(説明する人自身の体験や考えていることなど)を紹介した後、隣同士などで、自分ならどう考えるか、話し合ってもらおう。
- ・グループワークで、質問項目を参考に自分や身近な人のことについて考え、思ったことを話しあってもらう。留意点として、他の人の話はさえぎらず最後まで聞く、発言内容については否定や批判はしない、話したくないことは話さない、など事前に参加者に伝えてから開始する。
- ・終了後は、お互いにねぎらいの言葉をかけるなどの促しや、気分を変えるためストレッチや体操などを皆で実施するのもよい。



(参考2)

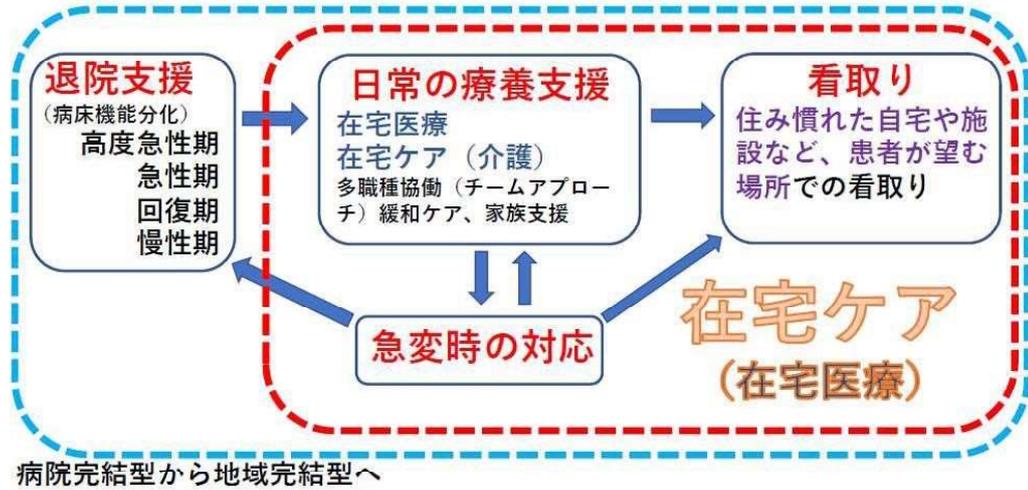
「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。



(参考3)

在宅医療提供体制に求められる医療機能 (平成30年4月より実施)



出典：斎藤内科クリニック 斎藤忠雄先生資料

令和 3 年度在宅医療・介護連携推進事業
(実績一覧・レポート)

R3医療と介護の市民講座(ACP)

No.	開催ST	開催日時	対象者	会場	目的・テーマ	講師			参加者数
						所属	職種	氏名	
1	西	5月25日(火)	地域住民	山田公民館	考えてみませんか、これからの治療・ケア～望む生活・看取られ方について～	済生会新潟病院	緩和ケア認定看護師	平澤和美	31人
2	中央	6月6日(日)	市民	新潟市民プラザ	在宅医療の未来を考える「ピア」上映会「いのち・暮らし・生きがいを支える在宅医療」	医療法人アスムス	医師	太田秀樹	136人
3	江南	6月7日(日)	ボランティアサークルに登録している地域住民	曾野木地区公民館	じょうずな医療のかかり方	在宅医療・介護連携ステーション江南	社会福祉士	吉川正浩	31人
4	江南	6月25日(金)	社協に登録しているボランティア	江南区福祉センター	じょうずな医療のかかり方	在宅医療・介護連携センター	保健師、地域看護専門看護師	細道奈穂子	11人
5	西蒲	6月30日(水)	学水クラブ	学校町記念会館	知っておこう、医療と介護～いざという時のために～	在宅医療・介護連携ステーション西蒲	①社会福祉士 ②社会福祉士	①加藤卓真 ②梅川望	13人
6	秋葉	7月6日(火)	みそら野茶話会参加者	みそら野会館	知っておきませんか、在宅医療・介護～自宅での療養生活のイメージ～	①地域包括支援センター新津 ②新津医療センター病院	①保健師 ②MSW	①酒泉真里香 ②野口麻衣子	14人
7	中央二	8月19日(木)	ふれあい健康クラブ(南万代コミ協)	新潟市総合福祉会館	望む看取り、看取られ方	みどり病院	看護師	池田浩美	1月へ延期
8	東二	8月27日(金)	地域の住民	木戸公民館	在宅療養とは	①なじよも訪問看護ステーション ②木戸病院	①②看護師	①吉田美紀 ②永井貴子	中止
9	西	9月4日(土)	一般市民	黒崎市民会館	最期の迎え方 一緒に考えてみませんか～ACP(アドバンス・ケア・プランニング)ってなに？	済生会新潟病院	医師	坪野俊広	延期
10	秋葉	9月8日(水)	新町長寿だんご会参加者	新町長寿だんご会	ACPと看取りを学ぶ	新潟市在宅医療・介護連携ステーション秋葉	保健師	根岸陽子	中止
11	秋葉	9月14日(火)	みそら野茶話会参加者	みそら野会館	介護保険を活用した老後の生活～ACP～看取りを学ぶ	新潟市在宅医療・介護連携ステーション秋葉	保健師	根岸陽子	中止
12	北	10月8日(金)	ふれあい大学講座参加者	北区濁川公民館	これからの治療ケア～望む看取り方、看取られ方～	新潟市在宅医療・介護連携センター	保健師	細道奈穂子	25人
13	中央二	10月25日(月)	地域住民	出来島公民館	「もしバナカード」を使った講話	新潟市在宅医療・介護連携センター	保健師	細道奈穂子	16人
14	東	11月30日(火)	概ね、藤見・下山、山の下の圏域の市民	中地区公民館	もしもの時ってどんな時？みんなで一緒に考えよう	桑名病院	緩和ケア認定看護師	中野美佳	
15	西	12月1日(水)	一般市民	黒崎市民会館	考えてみませんか、これからの治療・ケア～望む生活・看取られ方について～	新潟青陵大学社会連携センター在宅ケア推進コーディネーター	保健師	長谷川直子	
16	西	12月4日(土)	一般市民	ハイブリッド(Zoom+新潟市総合保健医療センター)	最期の迎え方 一緒に考えてみませんか～ACP(アドバンス・ケア・プランニング)ってなに？	済生会新潟病院	医師	坪野俊広	
17	西第二	12月18日(土)	新潟市全区民	ハイブリッド(Zoom+新潟市総合保健医療センター)	ACPについて 一緒に考えてみませんかオンライン(ZOOM)講座～ACP(アドバンス・ケア・プランニング)ってなに？～	信楽園病院	医師	下畑光輝	

R3医療と介護の市民講座(認知症)

No.	開催ST	開催日時	対象者	会場	目的・テーマ	講師			参加者数
						所属	職種	氏名	
1	東第二	6月3日(木)	地域住民	粟山自治会館	健康寿命、笑いヨガ	①新潟医療生活協同組合 COOPカレッジ ②在宅医療・介護連携ステーション東第二	①歯科衛生士 ②看護師	①手塚美恵子 ②永井貴子	22人
2	西蒲	9月3日(金)	地域の茶の間「かもちゃん広場」	湯東ゆう学館	認知症について	みどり病院認知症疾患医療センター	副センター長	川井紀子	中止
3	西蒲	10月15日(金)	下組サロン参加者及び近隣住民	下組集会所	認知症について	西蒲中央病院訪問看護ステーション	看護師	矢久保玲子	
4	中央二	10月22日(金)	地域住民(八丁目の茶の間)	ニューモラル会館	認知症を学ぶ	総合リハビリテーションセンターみどり病院	認知症看護認定看護師	志賀木綿子	13人
5	西二	10月29日(金)	包括赤塚圏域の区民	内野まづくりセンター+オンライン	認知症について	信楽園病院	医師	下畑光輝	44人
6	西	11月5日(金)	一般市民	青山コミュニティハウス	認知症との付き合い方	済生会新潟病院	認知症看護認定看護師	水落麻衣	17人
7	東	11月11日(木)	概ね、藤見・下山、山の下の圏域の市民	中地区公民館	認知症を理解して地域で支えましょう	あかりケアプランセンター	介護支援専門員	西本円	
8	中央二	11月20日(土)	一般市民・医療介護従事者	新潟ユニゾンプラザ	地域で支えよう！認知症認知症の今を学ぼう	①東京慈恵会医科大学付属病院②公益社団法人認知症の人と家族の会③株式会社おおいけあ	①医師 ②県支部副代表 ③代表取締役	①繁田雅弘 ②等々力務 ③加藤忠相	

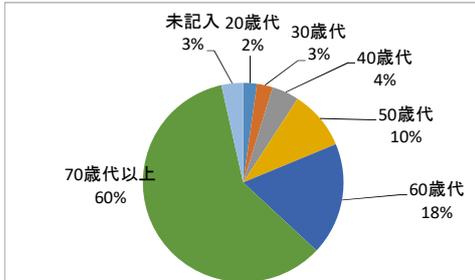
R3医療と介護の市民講座(その他)

No.	開催ST	開催日時	対象者	会場	目的・テーマ	講師			参加者数
						所属	職種	氏名	
1	北	8月5日(木)	自治・町内会長	北区文化会館	地域福祉研修会「地域活動における新型コロナウイルス感染症の理解」	木戸病院	感染管理認定看護師	武田惇	130人
2	北	9月8日(水)	北区民	豊茶健康センター	コロナを正しく知って、楽しく生活	豊茶病院	看護師	井本誓太	中止

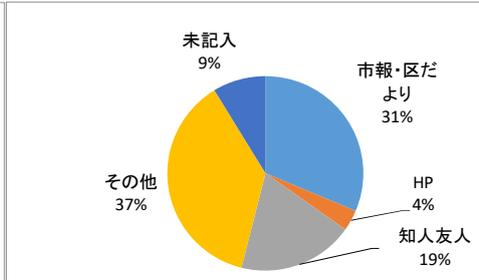
R3医療と介護の市民講座 実施後アンケート集計【R3.4月～9月】

(共通)・・・テーマに関わらない設問、(ACP)・・・ACPの講座での設問、(認知症)・・・認知症の講座での設問

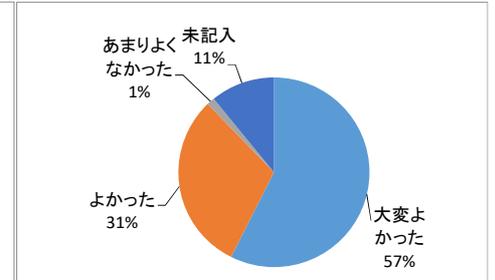
①年代(共通)



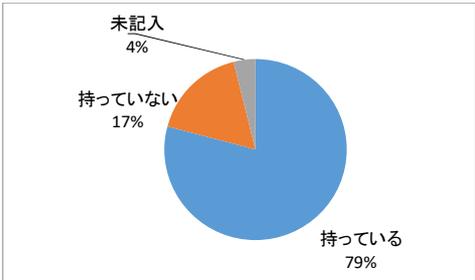
②講座を何で知ったか(共通)



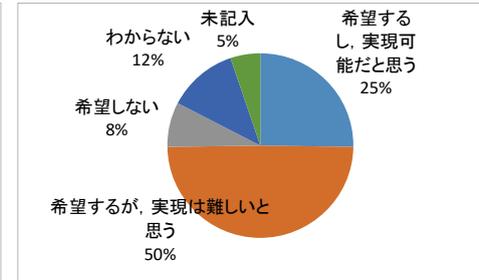
③講座の内容(共通)



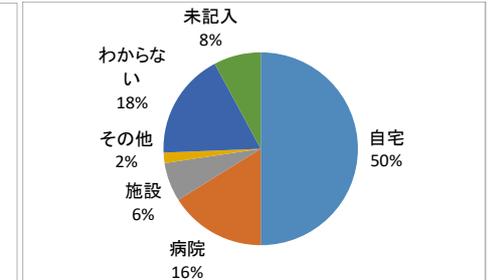
④かかりつけ医の有無(共通)



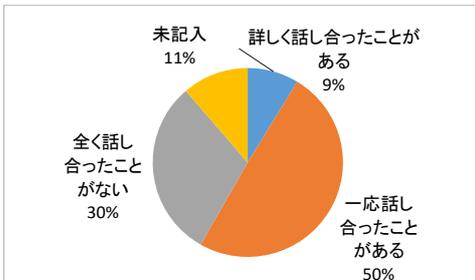
⑤在宅医療を希望するか(共通)



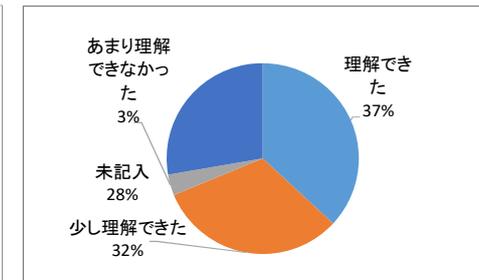
⑥人生の最期を迎えたい場所(共通)



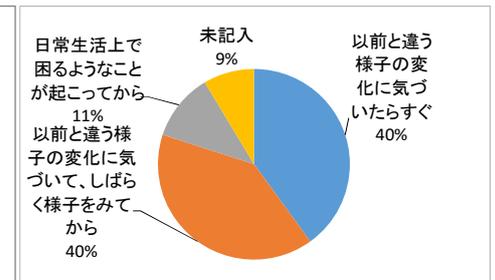
⑦家族と話し合ったことがあるか(共通)



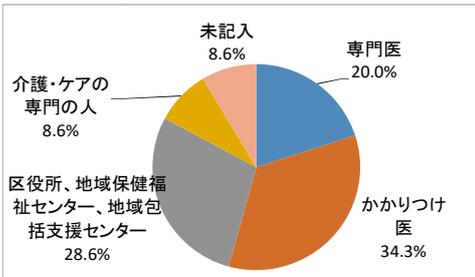
⑧ACPの理解度(ACP)



⑨認知症を疑う場合の受診のタイミング(認知症)



⑩認知症を疑う場合の相談先(認知症)



R3医療と介護の出前スクール

No.	開催ST	開催日時	団体名	学年	講師			参加人数 ()は予定
					所属	職種	氏名	
1	市	5月12日(水)	万代高校	1年生	新潟市地域医療推進課	行政職	植木 和歌子	80人
2	西蒲	5月19日(水)	西川中学校	2年生	西蒲中央病院訪問看護ステーション	①②③看護師 ④⑤理学療法士	①石井純子②高橋美優 ③小川茉莉江④坂爪優 ⑤中村杏奈	80人
3	西第二	5月21日(金)	新潟県立新潟西高等学校	2年生(医療専攻希望者)	信楽園病院	看護師	鈴木香織	20人
4	西第二	6月18日(金)	新潟県立新潟西高等学校	2年生(医療専攻希望者)	信楽園病院	理学療法士	長谷川靖	14人
5	北	6月18日(金)	葛塚中学校	2年生	新潟リハビリテーション病院	①理学療法士 ②作業療法士 ③言語聴覚士	①山本千絵、丹田萌絵 ②青木菜一、後藤千明 ③高橋美鈴、山田葵	125人
6	秋葉	7月2日(金)	小合小学校	5年生	特別養護老人ホームあがうら	介護福祉士		38人
7	江南	7月8日(木)	大江山小学校	3年生	①共栄堂 ②亀田第一病院 ③在宅医療・介護連携ステーション江南	①薬剤師 ②作業療法士 ③看護師	①鈴木慎 ②捧塚真 ③吉川真由美	56人
8	中央	7月20日(火)	高志中等教育学校	2年生	①新潟市地域医療推進課 ②在宅医療・介護連携センター	①行政職 ②保健師	①植木和歌子 ②細道奈穂子	14人
9	中央	7月20日(火)	高志中等教育学校	2年生	齊藤内科医院クリニック	医師	齊藤忠雄	14人
10	南	8月10日(火)	味方小学校・月潟小学校/白根高校	4~6年生/3年生	デイサービスあじかた	センター長	大屋	12人
11	西蒲	9月9日(木)	西川中学校	3年生	①②③理学療法士 ④言語聴覚士	西蒲中央病院訪問看護ステーション	①五十嵐美穂②齋藤恋太 ③中村杏奈④川島陵	86人
12	秋葉	9月10日(金)	小合小学校	4年生	新津医療センター病院	理学療法士	小出しのぶ	24人
13	江南	9月22日(水)	大淵小学校	4年生	①株式会社共栄堂 ②在宅医療・介護連携ステーション江南	①薬剤師 ②保健師	①鈴木慎 ②富樫奈々	28人
14	江南	9月22日(水)	大淵小学校	6年生	①株式会社共栄堂 ②在宅医療・介護連携ステーション江南	①薬剤師 ②保健師	①鈴木慎 ②富樫奈々	25人
15	秋葉	9月28日(火)	新潟県立新津高等学校	2年生	看護師	訪問看護ステーションにいつ	折田千鶴	4人
16	西二	9月30日(木)	赤塚中学校	2年生	信楽園病院	臨床検査技師	田端 篤	55人
17	江南	10月1日(金)	横越中学校	1年生	①亀田第一病院 ②中蒲原福祉会横雲の里	①理学療法士 ②介護福祉士	①捧塚真 ②鈴木唯	(110)
18	北	10月6日(水)	太夫浜小学校	6年生	①薬剤師 ②看護師	①小林慎 ②三塚公	①共栄堂 ②厚生連豊栄病院	32人
19	南	10月14日(木)	大鷲小学校	6年生	白根総合病院訪問看護ステーション	看護師	畠中昌美	11人
20	中央	10月15日(金)	桜が丘小学校	5年生	①共栄堂 ②③総合リハビリテーションセンターみどり病院	①薬剤師 ②理学療法士 ③作業療法士	①鈴木慎 ②本間春瀬 ③鈴木友和	85人
21	北	12月6日(月)	南浜小学校	6年生	①共栄堂 ②豊栄病院	①薬剤師 ②理学療法士 ③作業療法士	①小林慎氏 ②坂井亮祐氏 南波茜氏	(14)
22	西第二	1月24日(月)	小瀬小学校	6年生	信楽園病院	看護師	小柳瑞恵	(12)
23	中央二	10月13日(木)	新潟第一中学校	2年生	医師	総合リハビリテーションセンターみどり病院	矢島隆二	(70)
24	西二	10月27日(水)	坂井輪中学校	2年生	共栄堂	薬剤師	鈴木慎、小林慎、丸山聡	229人
25	北	11月11日(木)	濁川小学校	6年生	共栄堂	薬剤師	鈴木慎、小林慎	(62)
26	北	1~2月	木崎中学校	1年生				(61)

R3医療と介護の出前スクール【感想・要望等】

- | | |
|------------|--|
| 1 | たくさん資料を用意していただき、ありがとうございました。体験活動もあったため、生徒の興味関心が高まった様子がありました。次は、介護面などで起こし方とか支え方など、日常でも生徒ができそうなことがあったらぜひ教えてください。今回はお世話になりました。ありがとうございました。 |
| 2 | 具体的な看護師への道や、職場での様子をわかりやすく、とてもいいにお話をいただいたので、とても深い学びができたと思います。 |
| 3 | 様々な難しい場面を実際に体験させていただき、とても良い経験になりました。楽しいという声が出てまじたり、知らなかったけどよくわかったという声が出てきたりして、今後の生活についても考えられたので、充実した時間になりました。ありがとうございました。 |
| 4 | 本日は講演と実技体験ありがとうございました。生徒たちはとても興味深く、また、楽しそうに活動していたと思います。今後もまたお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。 |
| 5 | 上記の活動をはじめて間ない時期で、生徒の基礎知識もほぼ0に等しいような状況でかなり密度の濃い講義をしていただいたと思います。生徒もいつもの授業以上に集中して聞いたりメモをしたりしているように見えました。ありがとうございました。 |
| 6 | 大変ありがとうございました。子どもたちにとっての大きな学びとなりました。やはり直接講師の先生からのお話は、ありがたいと思ひました。また、よろしくお願ひいたします。 |
| 7 | 実際に現場で活躍されている訪問看護師から、秋葉区での在宅療養の具体例をまじえてお話をいただいたことで訪問看護についての理解がより深まりました。他の医療従事者の大切さも強く感じることができました。また、事前に考えた質問に丁寧に答えいただき誠にありがとうございました。また、事業担当者には出前スクールの前に生徒に訪問看護(師)の仕事内容や課題点などのお話をいただき、研究相談にのっていただきました。本当に感謝しております。生徒だけでなく私自身もとても勉強になりました。 |
| 8 | リモートでの開催になりましたが、資料や内容を工夫していただいたおかげで、生徒たちは沢山のことを学べたようです。次年度以降は、福祉学習よりも職業学習と本事業を結びつけた方が教育活動に合いやすいと思ひますので、またこちらで検討していきます。ありがとうございました。 |
| 9 | 体験を含めた内容でもよかったです。来年も機会があったら利用したいです。ありがとうございました。 |
| 10 | 普段受診以外で接することのない医療従事者の方から、実際の仕事、コロナ禍の現状など、様々なお話をさせていただき、生徒たちも熱心にメモを取りながら聞かれました。本校生徒にも、医療従事者を目標としている生徒は多く、それらの生徒は特に先生方の話を聞き逃すまいとして集中しているようでした。中学生にもわかりやすく、興味を引かれる内容で構成されたお話で、大変ありがたかったです。来年度も、機会があればぜひ利用させていただきたいと思ひます。この度はありがとうございました。 |
| <改善点・課題あり> | |
| 11 | 薬剤師さんの実験は手元をカメラで映すなどすればよかった。打ち合わせ不足でした。申し訳ありません。 |
| 12 | ZOOMでの授業でしたが、生徒は集中して講義を聴いていました。体験的な活動が無いため、具体的な動きや、仕事の大変さなどが伝わりにくいところがありました。 |

R3ご当地連携研修会(感染症)

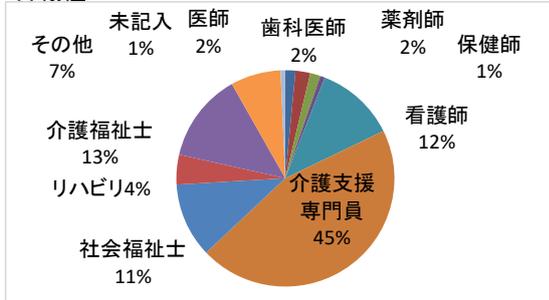
No.	開催ST	開催日時	事業名	会場	目的・テーマ・内容	講師			参加者数
						所属	職種	氏名	
1	中央第二	6月7日(月)	感染症対策研修会(入所系施設向け研修)	愛広苑香番館	入所系施設における感染症対策	新潟市民病院	感染管理認定看護師	大崎角栄	40人
2	西第二	6月9日(水)	在宅医療ネットワークにしく赤・坂ネット研修会	web	新型コロナウイルスにおける基本的な知識と感染対策	①信楽園病院 ③新潟市保健衛生部	①医師 ②感染管理認定看護師 ③医師	①川崎聡 ②佐藤孝江 ③山崎哲	120人
3	西	7月28日(水)	ご当地連携研修会	web	①新型コロナウイルス感染症対応を含む感染対策において、介護施設での問題や課題について講義と座談会形式で行う。②誤嚥性肺炎の予防につながる食事介助について実践を交え、多職種の知識や技術の習得に繋げる	①②済生会新潟病院	①②認定看護師	①真柄陽子 ②大久保幸子	17人
4	江南	7月28日(水)	感染症対策研修会	web	スタンダードプリコーションを中心に施設における感染対策の徹底とクラスター防止につなげていく	新潟大学医学歯学総合病院	認定看護師	青木美栄子	50人
5	北東第二	10月22日(金)	新型コロナウイルス感染症対策研修会・相談会	web	新型コロナウイルス感染症対策研修会・相談会	木戸病院	認定看護師	武田惇	

R3ご当地連携研修会(一般)

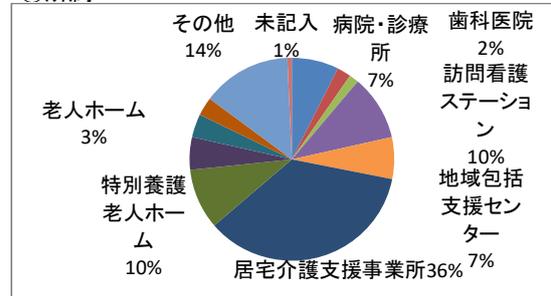
No.	開催ST	開催日時	事業名	会場	目的・テーマ・内容	講師			参加者数
						所属	職種	氏名	
1	西蒲	5月19日(水)	西蒲区在宅医療ネットワークの集い	web	コロナ禍での看取り	①ケアプランはなみ ②にいがた訪問看護ステーション ③特別養護老人ホーム白寿総	①介護支援専門員 ②看護師 ③生活相談員	①一場 篤久 ②佐藤 直子、樋浦 聡子 ③樋山 敬介	70人
2	秋葉	5月26日(水)	新潟市秋葉区第1・第2中学校区ネットワーク会議	秋葉区役所	新型コロナウイルス禍での介護予防	在宅医療・介護連携ステーション秋葉	保健師	佐藤ゆう子	27人
3	北	6月19日(土)	(ござれやネット)ご当地研修会	web	ACP「最期まで自分らしく生きる」を支えるために	①国立長寿医療研究センター ② 楠Old-Rookie 快護相談所和び咲び	①医師 ②主任介護支援専門員	①西川満則 ②大城京子	30人
4	南	6月21日(月)	感染症研修会	web	介護事業所ネットワークみなふくネット会員対象に開催し在宅療養を支える専門職が正しい感染管理知識を身に付けることができる	新潟白根総合病院	感染管理認定看護師	大久保勉	29人
5	江南	6月29日(火)	ご当地連携研修会	江南区福祉センター	在宅での看取りについて～訪問看護の視点から～	医療社団法人 真結会	統括部長	北村義彦	28人
6	東二	7月9日(金)	ご当地連携研修会	web	今さら聞けない成年後見制度～すぐに役立つ、お気軽Q&A～	①とき司法書士法人 ②包括木戸大形 ③包括石山 ④新潟市障がい基幹相談支援センター	①司法書士 ②社会福祉士 ③社会福祉士 ④	①川崎一夫 ②足立康彦 ③神田謙太郎 ④本田康博	20人
7	江南	8月24日(火)	多職種連携研修会	きらとびあ	医療と介護のハンドブックを活用し、グループワークを行いながら、医療と介護の連携のあり方について理解を深め、実際の連携のしにくさを少しでも軽減することができる。	①新潟市在宅医療・介護連携センター ②新潟市地域医療推進課	①②保健師	①細道奈穂子② 秋山貴子	延期
8	中央第二	9月14日(火)	Zoomno使い方研修中・上級者向け	総合リハビリテーションセンターみどり病院	Zoomホストになった際に運営進行できる技術を習得する		経営企画課課長 システムエンジニア	田宮 勲	延期
9	東	9月15日(水)	ご当地連携研修会	中地区公民館	専門医から認知症の方の受診のタイミングや周辺症状、言語聴覚士より食事摂取の対応方法を学ぶ。	①木戸病院 ②包括支援センター石山	①神経内科医師 ②言語聴覚士	①高橋俊昭 ②本田俊一	18人
10	西蒲	9月15日(水)	西蒲区在宅医療ネットワークの集い)ご当地研修会	web	地域における栄養管理支援	①(株)ツクイ ②③西蒲中央病院	①②③管理栄養士	①山田祥子 ②上原裕美子③ 西脇彩純	85人
11	東二	9月17日(金)	ご当地連携研修会	web	認知症のイ・ロ・ハ	①②木戸病院 ③地域包括支援センター石山	①医師②言語聴覚士③	①高橋俊昭 ②本田俊一	40人
12	東	9月29日(水)	医療と介護 リレー学習会	web	①「医療の時間」消化器癌と地域連携②「行政の時間」新潟市の災害時避難計画について③「介護・福祉の時間」サービス付き高齢者向け住宅での生活～ヴェルメ花かいどうの場合～	①新潟臨港病院 ②東区役所 ③ヴェルメ花かいどう	①医師 ②保健師 ③管理者	①窪田智之 ②風間沙紀 ③清水景太	37人
13	秋葉	10月5日(火)	ご当地連携研修会	秋葉区役所	①こころのセンターの業務 ②事例を通じた支援例の紹介	新潟市こころの健康センター		渋谷大輔	12人
14	江南	10月12日(火)	ご当地連携研修会	web	精神疾患を持つ方への支援～訪問看護師の視点から～	のどか訪問看護ステーション	管理者 看護師	吉田浩司	36人
15	中央第二	10月21日(木)	ご当地連携研修会(関屋・白新地域ケアネット全体会)	web	認知症を地域で支えるために	①総合リハビリテーションセンター・みどり病院 ②脳神経内科・内科むさしクリニック	①②医師	①成瀬聡 ②荒川武蔵	
16	北	10月27日(水)	北区で身寄りなし問題について考える	web	北区での身寄りなし問題について考える会の第1回(5回シリーズ)	①地域包括支援センターふなえ②新潟みなと法律事務所	①看護師・社会福祉士 ②弁護士	①須貝秀昭 ②石山正彦	
17	中央第二	11月10日(水)	新潟市居宅支援事業者連絡協議会中央ブロック研修会	web	コロナフレイル	総合リハビリテーションセンターみどり病院	理学療法士	小田博美	
18	秋葉	11月11日(木)	「ACPについて、ケアマネジャーとしてできること」	秋葉区役所	ケアマネジャーからもACPについて学んでもらい、利用者自身が選択した希望に沿ったケアが受けられるようにする。	下越訪問看護ステーション	看護師	布川和美	
19	中央第二	11月18日(木)	NS・どまんか、EAファーマ共催	web	適切な排泄について学ぶ	下伊那赤十字病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	小澤恵美	
20	東第二	11月19日(金)		web	心不全～多職種の視点から～	①本町調剤薬局はなみずき店 ②東区役所 ③木戸病院	①薬剤師 ②保健師 ③看護師	①阿部義之 ②渡辺ゆきな③ 高橋栄子	
21	西第二	11月22日(月)	にしく赤・坂ネット	web	ACPについて	①新潟市医師会②新潟市地域医療推進課	①医師	①横田樹也 ②関根伴和	
22	西	11月30日(火)	ご当地連携研修会	web	尿路感染症と尿カテ管理 ①尿路感染症基本のキ ②どうしたら良い？在宅での尿路カテーテル管理	①②済生会新潟病院	①感染管理認定看護師② 皮膚・排泄ケア認定看護師	①佐藤清美 ②小野塚明美	

R3ご当地連携研修会(一般)【R3.4月～9月】

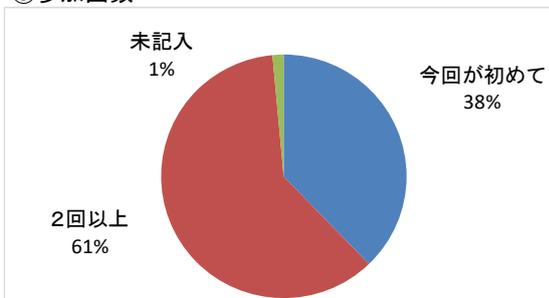
①職種



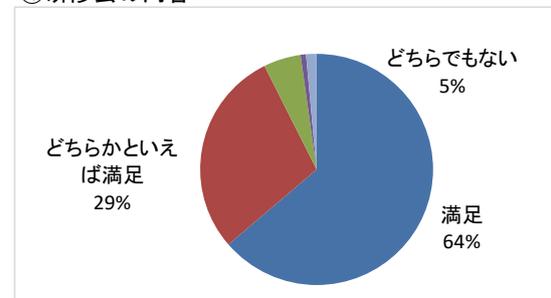
②所属



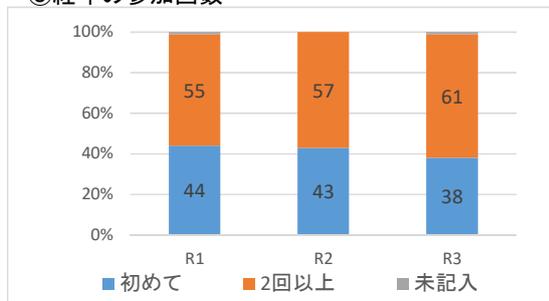
③参加回数



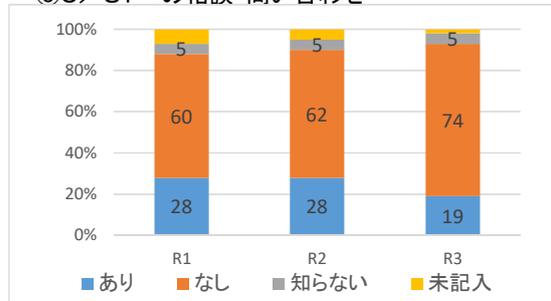
④研修会の内容



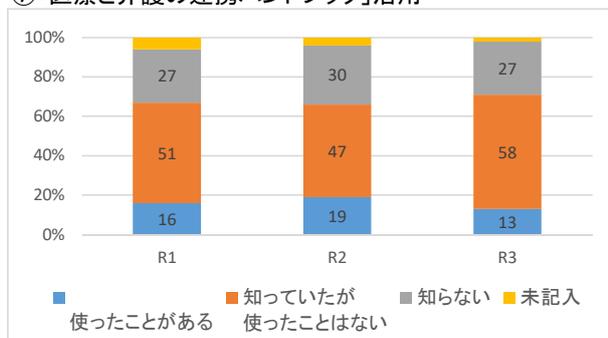
⑤経年の参加回数



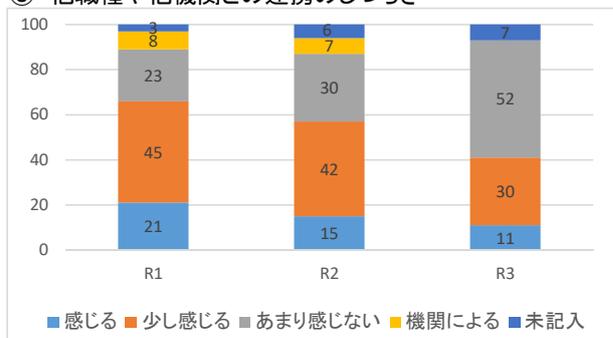
⑥C/STへの相談・問い合わせ



⑦「医療と介護の連携ハンドブック」活用



⑧ 他職種や他機関との連携のしづらさ



健康フェア 2021



～健康と介護についてみんなで考えましょう～

日 程：令和3年10月29日（金）

場 所：内野まちづくりセンター3階（内野町413番地）

☆介護予防講座・医療と介護の市民講座 オンライン講演会

※事前申込必要。申込締切 **10/22** 14:00～15:30（受付開始13:30～）

○定員 来場40名 オンライン50名（応募多数の場合は調整させていただきます）

○規模縮小で行ないますが、状況により入場の整理、制限、または中止をさせて頂く場合があります

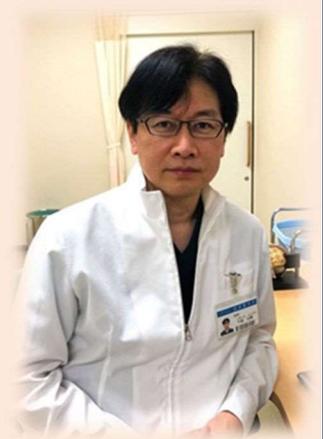
『今、認知症について知っておくべきこと』

認知症の発症予防 / 早期発見のポイント、早期受診のメリット /

行動・心理症状とは？ / 家族が要介護状態になったときすべきこと

信楽園病院 脳神経内科部長 下畑 光輝 医師

（会場で映像での講演になります）



お申込みはお電話 ☎ 新潟市地域包括支援センター赤塚 **025-264-3377**

（オンラインでご参加の方は、後日 ID、パスコードをお送りします）

☆介護に関する相談コーナー（事前申込不要）12:00～16:00

悩んでいませんか？ 仕事と介護の両立、親御さんの介護など…

※開催におきましては基本的な感染対策は致しますが、不織布マスク着用のうえご来場ください。

主催・問い合わせ：新潟市地域包括支援センター赤塚

025-264-3377

共催：新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二

裏面もご覧ください

【医療と介護の市民講座】

8～9月の特別警報発令により、その間予定していた8回が中止・延期となった。

市民向けの講座は11/15までに15回開催した。

今年度は“ACP”と“認知症”に特化して取り組むことにしており、15回の主テーマの内訳は認知症について（5回）、在宅医療と介護（5回）、ACP（3回）、その他（2回）であった。

開催規模としては、100名以上の参集が市民プラザと北区文化会館の2回、その他は“地域の茶の間”等の集まりが12回、ハイブリッド開催が1回であった。

地域の茶の間にて

●開催日時：2021年10月25日（月）14：00～15：00

●開催場所：出来島公民館

●対象者：みんなの茶の間・上山

●テーマ・講師 「もしバナカードをやってみよう」

新潟市在宅医療・介護連携センター

細道奈穂子

●参加者：16名

中央区区づくり事業により、以前にACPの話は1度聴いている地域の茶の間。

“もしバナカード”でゲームにより自分が選択したカードの理由を語り合ってもらった。

「どれも大切なことばかりでカードが捨てられなかった」「これからも元気で過ごしたい思った」等感想が聞かれた。



ハイブリッドにて

●開催日時：2021年10月29日（金）14：00～15：30

●開催場所：新潟市内野まちづくりセンターとZoomによるオンライン

●対象者：地域包括支援センター赤塚圏域の市民

●テーマ・講師 「今、認知症について知っておくべきこと」

信楽園病院

下畑光輝（脳神経内科部長）

●周知方法：チラシの配布など

●参加者：会場31名、オンライン13名（介護事業所や行政職員の参加を含む）

認知症の発症予防、早期受診のメリット、BPSD、要介護状態になったとき家族がすべきこと、コロナ禍における認知症の予防とケア、意思決定が困難になることからのACPの話題にも触れた内容。

認知症予防のための食事や運動、睡眠、人と触れ合い等日常生活で気をつける点が確認できた。

相談できる場所が分かり安心できた。少しでも予防し楽しく暮らせるようにしたい等感想があった。

【働く人のための医療・介護セミナー】

市民向けの「オンラインセミナー」を行ったほか、企業からの問い合わせや相談をいただいたことを機に、職員セミナーとして企画を提案し開催した。

- ・6/16 ネットライフ生命 代理店を対象に新潟支社から県内 20 端末へオンライン
- ・7/14、11/18 株式会社マルタケ ハイブリット（本社 35 名+県内 4 支社へオンライン）
- ・新潟県労働金庫（10/11、10/13）本店を含む 8 端末へオンライン（27 名）

いずれも各所在地の圏域の地域包括支援センターと共催し、かかりつけ医の重要性、地域包括支援センターでの相談業務、“もしも”のときの話などを内容に含めている。

「医療と介護のオンラインセミナー」

- 開催日時：①2021年9月3日（金）②2021年9月10日（金） いずれも 19:30~20:30
- 方 法：Zoomによるオンラインセミナー
- 周知方法：市報掲載、Komachi Web のイベント広報（無料掲載）、公共施設や病院にチラシ設置、いくつかの企業への案内（事業所セミナーでお世話になった企業、新潟市の男女共同参画課や新潟大学の男女共同参画推進室などを経由で）、ホームページ、Facebook、医療と介護の市民講座でチラシ配布
- 参加者数：①10名 ②15名（40歳未満3人、40代4人、50代3人、60代2人、70歳以上2人）
- 結 果：アンケートの評価も概ね好評だった。講師の熱心さと資料の見やすさが評価されていた。参加者の中にはすでに介護中という人もいて、「もっと早く知っておけばよかった」との感想もあった。様々な方法で周知をしているが参加者が少ないことが課題。介護が必要になる前の年代の方から多く参加してもらえよう周知方法の工夫が必要。



9月3日

相談窓口と認知症のこと
少しだけ知っておきましょう

講師

新潟市地域包括支援センター藤見・下山
管理者 金子直子
みどり病院認知症疾患医療センター
副センター長 川井紀子

9月10日

介護者の生活も
守るためのしくみ
施設サービスも知っておこう

講師

住宅型有料老人ホーム
「はなことば新潟」「はなことば新潟2号館」
統括ホーム長 井上 恵
新潟市在宅医療・介護連携センター
保健師 細道奈穂子

【医療と介護の出前スクール】

今年度は26回の申し込みを小・中学校、高校からいただいている。

現在までに19校で開催したが、新型コロナ感染予防の関係で9月上旬に予定していた3校は中止となった。また、4校ではZoomを用いたオンライン授業を行った。

講師となったのは、看護職（9回）、介護職（9回）、リハビリ職（8回）、薬剤師（7回）、医師（3回）、臨床検査技師（1回）、医療ソーシャルワーカー（1回）であった。

学生数は5～229名と様々である。実習や演習は感染予防対策をとり、可能な範囲で行なった。

新潟市立高志中等教育学校では“総合的な学習の時間”に、「新潟市と広島の様々な分野における“平和”とその課題について理解を深めよう」というテーマのもと、関心のある分野ごとに研究テーマを設けての学習が行われており、地域医療を選んだ学生に対する授業を希望された。

●開催日時：2021年7月20日（木） ①9：45～10：25 ②13：30～14：10

●開催場所：新潟市立高志中等教育学校 教室

●対象学年：2年生

●テーマ・講師 ①地域医療について～新潟市の取り組み～

新潟市保健衛生部地域医療推進課 植木和歌子氏

新潟市在宅医療・介護連携センター 細道奈穂子

②超高齢社会におけるこれからの医療

斎藤内科クリニック院長

斎藤 忠雄氏

●参加者 17名

必要な医療介護の在り方をデータをもとに考えて頂いた。また、新たな医療提供体制（地域医療構想）をもとに病院の機能分化、偏在是正への理解が得られたと同時に医師、看護師不足をテーマとしていた学生は衝撃を受けたとの事。

病院医療から在宅医療への転換のきっかけ、原点となった尾道の山口医師の取り組みについての学びもさらに理解を進める後押しとなった。

学習の最後に学生さんから、今日のこの学びを生かし、自分たちの役割、出来ることは何かなど、さらに調べを進めたいとの意欲的な感想が述べられた。



【ご当地連携研修会】

今月末までに28回開催が予定された。8～9月の特別警報発令により2つは中止となった。開催された26回のうちオンラインセミナーの方法を用いたのが22回である。内容は、新型コロナに関連したこと10（感染対策、コロナ禍の看取り、コロナフレイルなど）、精神疾患の支援3、ACP3、認知症2、身寄りなし成年後見制度2、その他6となっている。

「認知症の方を地域で支えるために」

●開催日時：2021年10月21日（月） 19:00～21:00

●開催方法：ZOOM使用したオンラインセミナー

2つの講演後、ブレイクアウトルーム機能を用いたグループワーク

●テーマ・講師：

～新潟市で行われていること～ 総合リハビリテーションセンターみどり病院 院長 成瀬 聡氏

～クリニックで行われていること～ 脳神経内科・内科むさしクリニック 院長 荒川武蔵氏

●対象者： 関屋・白新圏域の介護保険事業所、近隣医療機関に従事する専門職

●参加者数：48名

オレンジサポート代表としての視点、認知症サポート医としての視点の講話はとても分かりやすかった。支える仕組みがあっても、診察を受けてから制度活用までの空白期間が課題となっている。地域の多職種で連携することの意義を再認識しあった。また、クリニックでの診察の様子、家族や本人への説明ややり取りなど具体的に知ることもできた。



新潟市在宅医療・介護連携ステーション東第二
ご当地連携研修会

令和3年10月吉日

医療・介護関係機関 各位

〈他の研修会チラシ例〉

新潟市在宅医療・介護連携事業 ご当地研修会のご案内

平素より新潟市在宅医療介護連携事業にご参加、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

今回は『心不全』をテーマといたしました。心不全の予防や治療について、各専門職の方よりお話ししていただく予定です。改めて心不全疾患について振り返りたいと思っております。是非奮ってご参加賜りたくお願い申し上げます。

テーマ

心不全と共にその人らしく生きるため
多職種でできること

講師

- ◆木戸病院 看護師 高橋 栄子氏
『心不全医療と今後の課題』
- ◆本町調剤薬局はなみずき店 薬剤師 阿部 義之氏
『薬剤師の在宅支援サービスと心不全治療薬』
- ◆新潟市東区役所 保健師 渡辺 ゆきな氏
『東区における生活習慣病の実態と課題』

○開催日時/令和3年11月19日(金) 15時～16時30分

○開催方法/Zoom ミーティングを用いたオンライン形式

○お申込み/事務局宛にて、メールでお申込みください。

mail: byoshin-renkei@kido-hp.com

メールには下記の内容を入力してください。

- ・ 氏名: ご当地研修会の申し込み
- ・ 内容: 事業所名、参加者氏名、電話番号、FAX番号と
心不全に関する気になる点や聞いてみたい事を入力ください

※お申込みのあった方に、返信メールにてZoomの「ログインIDとパスワード」をお送りいたします。

新潟市在宅医療・介護連携ステーション 東

ご当地連携研修会

新潟市在宅医療・介護連携ステーション東と山の地域包括ケアネットでは、2017年度より共同で「医療と介護リレー学習会」を開催しています。

この学習会では、地域の医療・介護関係者が交待（リレー）で講師になり、ご自身の専門・得意分野について約20分のミニレクチャーを行います。

地域の専門職の皆さんでリレーを重ねて「みんなで学ぶ、みんなで教える」会にしましょう!

みんなで学ぶ みんなで教える

医療と介護 リレー学習会

参加無料

第10回

日時 2021年9月29日(水)

時間 19:00～ (20:30頃終了予定)

会場 オンライン (Zoomミーティング)

※参加登録された方へミーティングID・パスワードを通知します。

定員 80名 (登録先着)

※多職種多職種参加を目的とするため、全職種参加を原則とします

参加申込 インターネット (Googleフォーム) での登録制です

下のURLを入力するか、右のQRコード*を読み取って参加登録ページにアクセスし、必要事項を送信してください

URL <https://bit.ly/2W1EmCI>

締切 9月15日(水) 17時 但し定員に達し次第締切

主催 新潟市在宅医療・介護連携ステーション東 (新潟臨港病院 地域連携センター内) TEL 364-7321 / E-mail higashi-station@ngt-rinkohc.jp

共催 山の地域包括ケアネット (山の下ねっと www.yamanoshita.net)

1時間目 19:00～19:30 医療(おもに医師)の時間

2時間目 19:30～20:00 医療(医師以外)または行政の時間

3時間目 20:00～20:30 介護・福祉の時間

1 消化器がんと地域連携

新潟臨港病院 内科部長 窪田 智之 先生

2 新潟市の災害時避難計画について

新潟市東区役所 健康福祉課 地域保健福祉担当 風間 沙紀 先生

3 サービス付き高齢者向け住宅での生活～ヴァルメ花かいどうの場合～

サービス付き高齢者向け住宅ヴァルメ花かいどう 管理者 清水 景太 先生

毎週木曜日は「認知症を学ぶ日」

～30分のオンライン認知症セミナー～

- ◆ 12/2（木）スタート 毎週木曜日18時～
- ◆ 認知症に関する医療と介護，福祉が学べる30分
- ◆ すべての介護・福祉関係者，医療従事者が対象
- ◆ 聞きたいところだけの聴講も可能



ZOOM使用／聴講者の顔出し・グループワークなし／個人スマホからの聴講もOK！

【内容】

	開催日	タイトル	講師
1	12/2	認知症とは何か／とやのがたネットの働き	みどり病院医師 成瀬 聡
2	12/9	アルツハイマー型認知症について	みどり病院医師 成瀬 聡
3	12/16	レビー小体型認知症について	みどり病院医師 矢島 隆二
4	12/23	前頭側頭型認知症について	みどり病院医師 矢島 隆二
5	1/6	脳血管性認知症について	みどり病院医師 矢島 隆二
6	1/13	認知症と薬（4種類の薬、新薬など）	県庁前神経内科クリニック医師 小林 央
7	1/20	認知症の行動・心理症状の考え方 ～総論～	みどり病院看護師 志賀 木綿子
8	1/27	認知症の行動・心理症状への対応 ～拒否や独り歩きなど～	みどり病院看護師 志賀 木綿子
9	2/3	認知症の行動・心理症状（BPSD）への薬物療法	みどり病院医師 成瀬 聡
10	2/10	認知症における多職種連携	新潟市地域包括ケア推進課
11	2/17	認知症初期集中支援チームをご存じですか？	みどり病院認知症疾患センター 川井 紀子
12	2/24	認知症と「食」～栄養・嚥下～	みどり病院管理栄養士・言語聴覚士
13	3/3	認知症とリハビリテーション	みどり病院リハビリテーション部
14	3/10	実践報告：介護事業所からの報告	地域包括支援センター鳥屋野・上山
15	3/17	実践報告：家族や地域との関わり	中央区社会福祉協議会CSW 鹿柴 綾子

【申込方法】

11/26までに、メール (kawai.noriko@midori-gr.jp) でお申し込みください。

メールには件名と本文を、下記にしたがって入力してください。

件名 とやのがたネットオンライン研修申込

本文 ①参加者氏名 ②所属機関名 ③職種

○受付が完了した方には、返信メールにてご連絡いたします。

○毎週火曜日にZOOMの「ログインIDとパスワード」をお送り致します（初回11/30）

（利用可能な端末は1台です。個人のスマホ、PCアドレスからの申込みも可能です。複数の端末で「ログインIDとパスワード」を併用しないでください。

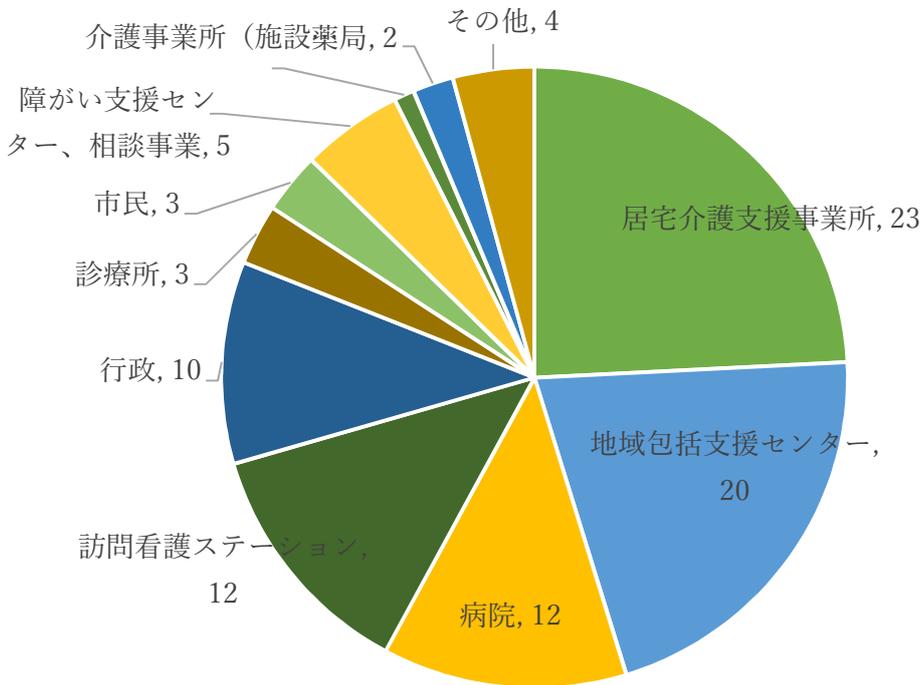
【問い合わせ先】

とやのがたネット運営事務局（みどり病院認知症疾患医療センター）川井・剣持 電話244-5566（直通）

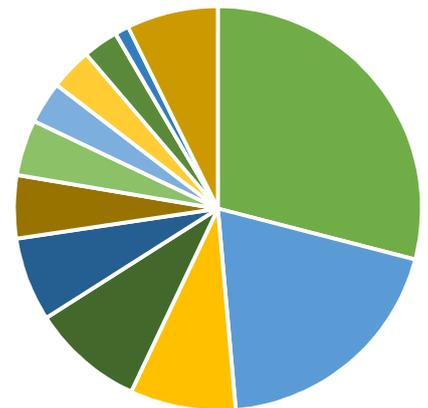
相談事業(2021.4.1~11.16)

【相談者内訳】

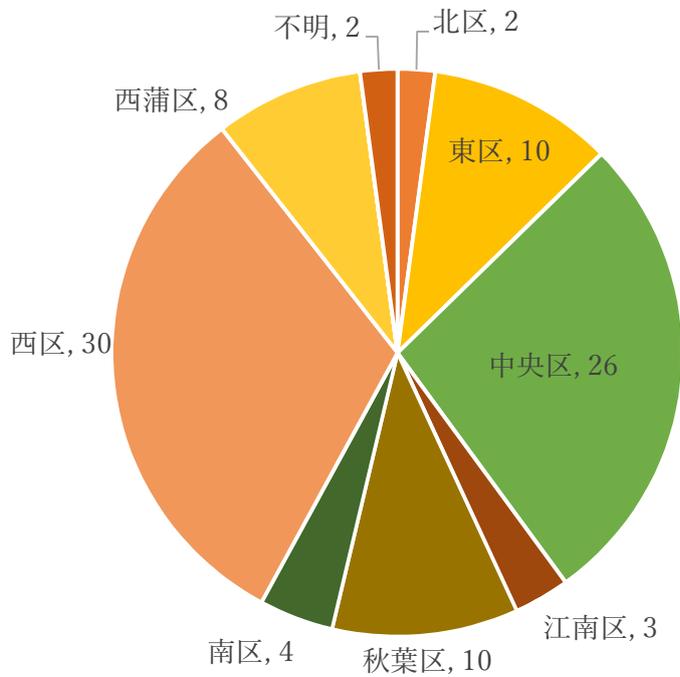
相談者数:95



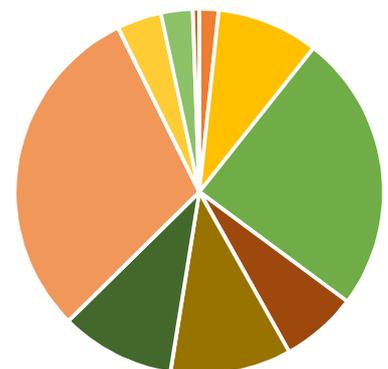
*参考:2020年



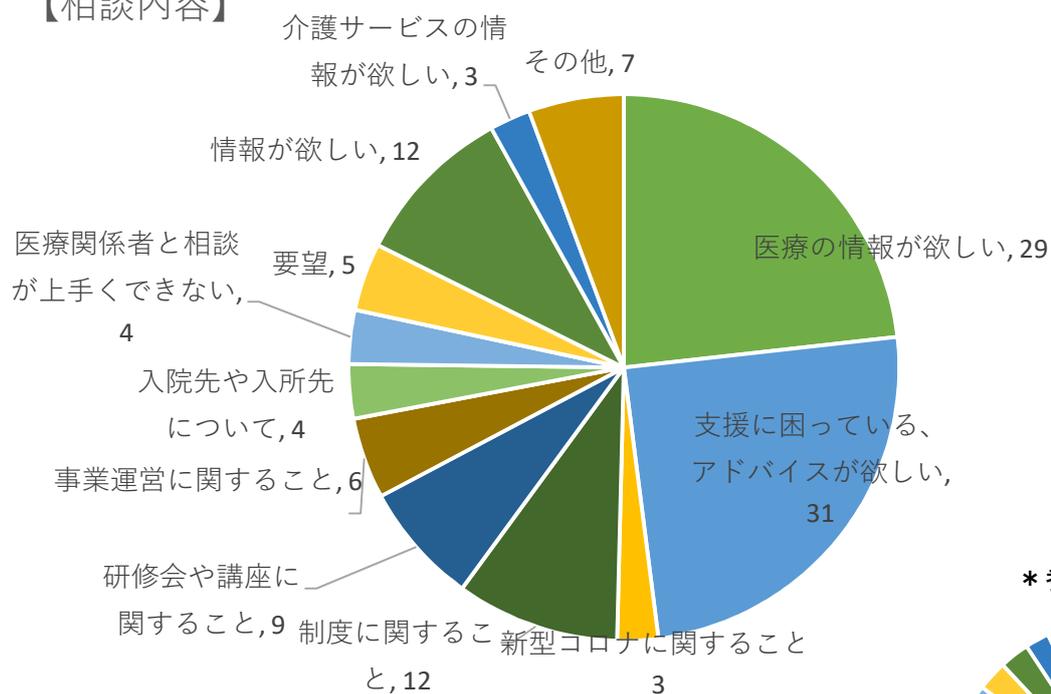
【地区別内訳】



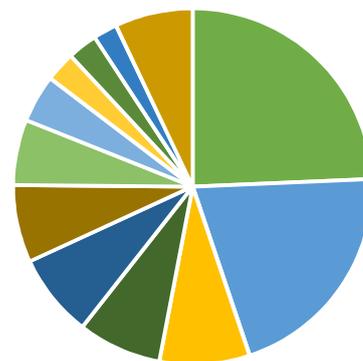
*参考:2020年



【相談内容】



* 参考: 2020 年



※相談者 95 件の内容を分析し、125 の内容として集計した。

新潟市在宅医療・介護連携 ステーション北 活動報告

令和3年11月30日（火）

厚生連 豊栄病院

福祉連携センター 患者総合支援センター

医療ソーシャルワーカー 岩淵 英理

北区・当院の概況

【北区の医療体制】

- ・ 病院数→4か所
（救急指定病院：当院のみ）
- ・ 開業医数→27か所
- ・ 訪問看護ステーション→4か所

ネットワーク

医療と介護のささえあいネット

「ござれやネット」



【豊栄病院の概況】

・ 病床数→ 1 9 9 床

(地域包括ケア 病床 9 7 床 障がい者等一般病棟 5 0 床
一般病床 5 2 床)

・ 診療科→内科・整形外科・外科・眼科・泌尿器科・皮膚科・
もの忘れ外来・診療内科

・ 人工透析 検診センター 訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所

新潟市在宅医療・介護ステーション北 活動報告（H28年～）

(オ) 在宅医療・介護関係者に関する 相談支援

医療・介護従事者からの相談に対応

【現状】

ステーション北の相談対応件数は、他のステーションに比べ少ない。
年間平均4～5件。

【課題】

- ・ステーションの周知がされていない（かも・・・）
- 具体的な対応事例をあげながら、啓発の継続を行っていく。

(カ) 医療・介護関係者の研修 ～ご当地研修会～

①北区の入退院支援を考える会

世話人：北区4病院のMSW・PSW、地域包括支援センター

内 容：年1回ケアマネ・MSW・PSWを対象に北区の入退院支援に関する勉強会や研修会を企画。

○病院見学ツアー

○連携ハンドブックを活用した事例検討（入院編）

○連携ハンドブックを活用した事例検討（外来編）

○入退院支援に関するアンケート実施（令和2年度）→3年度分析、4年度研修

●来年度以降の取り組み

「ようこそ北区へ」～地域や北区の病院を知ろう～

→北区へ着任した1年目のMSW・PSW・ケアマネを対象とし、
北区の地域性やサービス、関係機関については地域包括支援センター
が紹介、説明。各病院については各病院のMSW・PSWが病院紹介や
入退院の流れについて説明を行う。

詳細については現在相談中。

北区で安心して相談業務が行っていけるよう地域で相談援助職をサポート
することを目的としている。

②北区の医療と介護の連携を考える会「ござれやネット」

●地域の専門職が抱える課題やニーズに対応した研修会を開催。（ステーションは共催）

令和3年度「最期まで自分らしく生きる」を支えるために。オンライン開催

●「元気塾」

A講座：地域の医師より

B講座：専門職より

C講座：薬剤師より

北区の医療と介護のささえあいネット講座

在宅医療と介護に役立つ **元気塾!**

A講座（塾長） 知行先生 の「**心臓と仲良くせう!**」30分
聖徳院 院長 聖徳行医師



皆様お疲れ様です！私は、循環器を中心とした内科診療をしています。大卒時代から主に心筋梗塞や狭心症の診療をしていました。開業から15年たった今、心筋梗塞や心不全が多いことを実感しています。講演では、「心臓健診」「心不全」の二つを中心に話をさせていただきます。お気軽に！

B講座（副塾長） 葉綾子さんの「**連携のこつ!**」(20分)
「専門職どうしの連携は難しい?～連携センター&ステーションがお手伝いします～」
新潟市医師会 在宅医療推進センター 経理 葉綾子 保健師、主任介護支援専門員



職種・経験・知識等の違いによって、連携への意識や連携方法にも違いがあるようです。支援が難しい、あるいは皆様のケース等も「連携」をキーワードに課題解決をあげましょう。

C講座（塾教官） 薬剤師が伝えたい「在宅医療に必要な薬の知識」
「在宅医療での、より良い剤型選択とは?」(15分)
はあとある薬局 市橋美子 薬剤師



薬剤師には130以上の剤型があります。処方、剤の種類の「何でも有る薬剤師」を目指しています。最近社会保険診療の「アンキター」として活動しています。葉さん、「お薬の薬-薬」が面白かったら、どうぞ、お声かけ下さい!! 北区の薬剤師みんなが相談に答えたいと思います。

とき：9月6日（火）PM7時～8時半まで
ところ：豊栄病院 2階（多目的ホール）

(キ) 地域住民への普及啓発

●医療と介護の市民講座

- ・ 社会福祉協議会と共催にて感染症について講座開催（今年度）
- ・ 地域包括支援センターや支え合い仕組み作り推進員に同行し、市民の集まりに参加。かかりつけ医やACPについて啓発を行っている。

●在宅医療・介護連携に関する普及啓発冊子の作成・配布

地域住民と活動を常にとともにしている社会福祉協議会や相談窓口であり地域包括支援センターの力を借りて住民の声を聴くようにしている。

●医療と介護の出前スクール

回数を重ねるごとにこの事業の大切を知る。

今年度は昨年度より1か所でも多くの学校に活用して欲しいと考え、啓発方法を検討。

- ・教育センターへのアプローチ
- ・地域コーディネーターの方への集まりに参加

昨年度より1か所申込みが増えた。



身寄りなし問題を考える会

<経過>

ステーション北が委託された当時、地域包括支援センターと北区健康福祉課、ステーションで2か月に1回情報交換会を開催していた。互いの活動の情報共有や北区の生活課題について話し合いを重ねていた。

医療と介護の現場で共通した課題が見えてきた。



「身寄りなしの方への支援」

平成31年に介護・医療の現場にアンケートを実施。

まずは、専門職で「身寄りなし」の方へ共通の認識を持つことが必要。

＜世話人会の発足＞

令和3年7月第1回世話人会開催

地域包括支援センター 社会福祉士

健康福祉課 保健師・保護係 係長

ステーション北

オブザーバー→身寄りなし問題研究会 須貝様

新潟みなと法律事務所 石山様

＜会の目的＞

身寄りのない方もスムーズに医療と介護サービスを受けながら安心して過ごせるように、北区の専門職が身寄りなしについての知識を高める。

第1回勉強会 令和3年10月27日（水）

テーマ1：身寄りなし問題について地域で取り組むきっかけ作り、動機つけ

身寄りなし問題研究会 須貝秀昭 氏

テーマ2：身寄りなし問題に関する用語・法律理解

新潟みなと法律事務所 石山正彦 氏

専門職・行政 50名参加

第2回：テーマ「医療同意」

第3回：テーマ「金銭管理」

第4回：テーマ「身元保証」

第5回：テーマ「死後対応」

身寄りなし問題は「ACP」にもつながる。北区では「ACP」を考える観点からも「身寄りなし問題」について考えていきたいと思う。

これからのステーション事業

1 : 医療と介護の連携

→新潟市のハンドブックに北区のオリジナルを追加できるように
検討

2 : 「身寄りなし問題」の体制作りの構築

3 : 「ACP」について地域包括支援センター・支え合い仕組み作りとの 合同での啓発

4 : 認知症→北区もの忘れ検診、現在の各機関との事業とのコラボ

●新しいものを作るだけでなく、今あるものをさらに飛躍させる

●誰とまたはどこを動かすとより良いものができるのか

病院探検教室

夏休み外
を楽しくなる!!

病院探検 第1弾

夏休み!

病院探検教室

対象: 小学校4年生~
中学校3年生

北区社会福祉協議会: さわやか公開講座
新潟市在宅医療・介護連携ステーション北: 区民公開講座

日時: 令和元年 8月9日(金) 午後1時~午後4時
会場: 南浜病院 (北区島見町4540番地)

無料
定員15名
(先着)

放射線科 レントゲンで 何を見る?	作業療法科 上手に気晴らし	デイケア科 デイケアって何? 知って、体験	心理室 こころの健康に ついてみんなで 楽しく学ぼう
--------------------------------	-------------------------	------------------------------------	--

～スケジュール～

- 12:30 豊栄老人福祉センター集合・出発
- 13:00 南浜病院到着(現地集合可)
- 13:15 オリエンテーション
病院探検
- 15:30 体験終了
- 16:00 豊栄老人福祉センター到着・解散

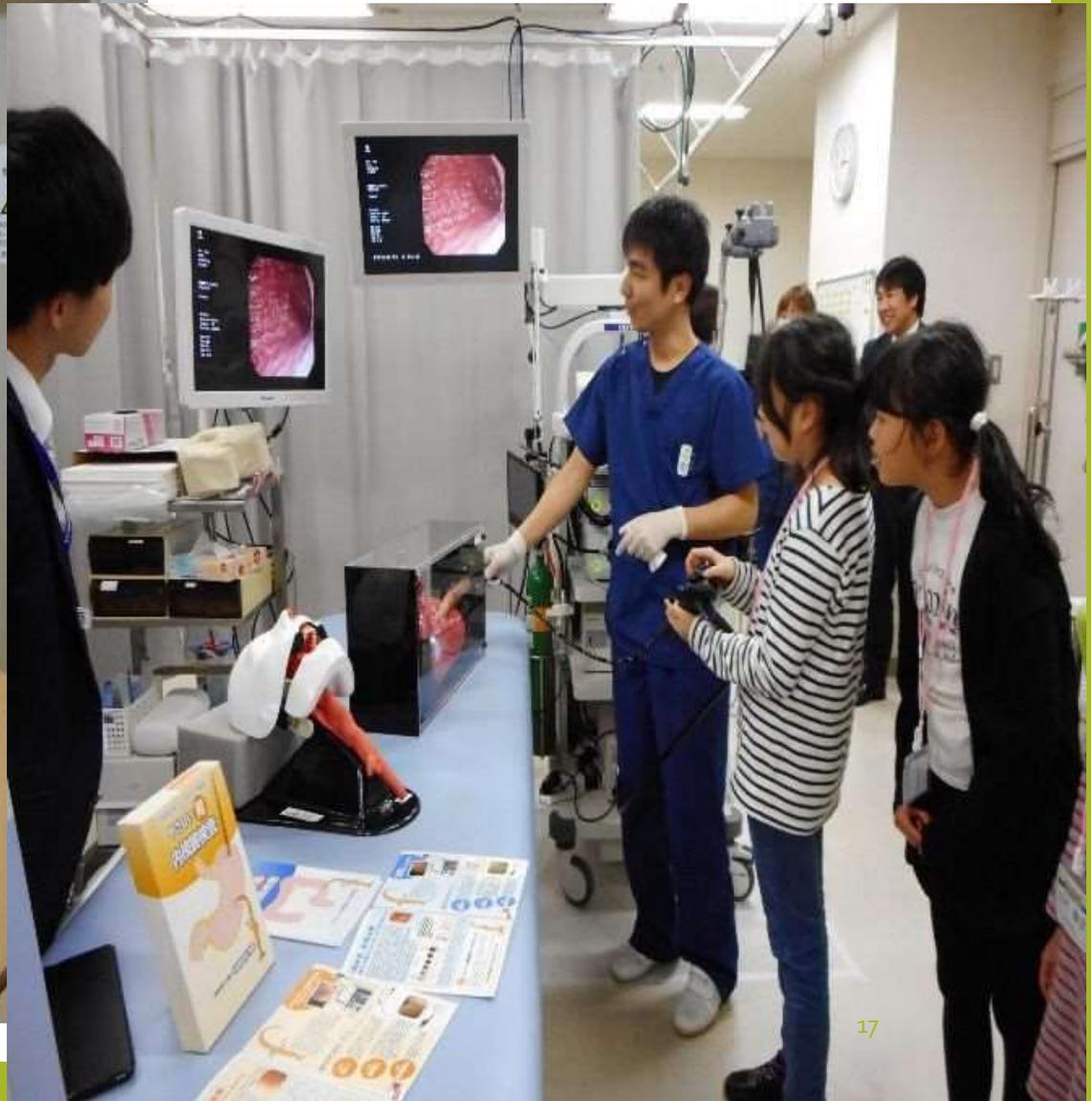
看護体験や血圧
測定をしたり、
聴診器に触れて
みましょう♪

南浜病院 アクセス

新潟市北区社会福祉協議会
お調べは TEL 025-386-2778
(平日 9:30~17:15 土 9:00~17:00)

主催: 新潟市北区社会福祉協議会
共催: 南浜病院、新潟市在宅医療・介護連携ステーション北

この事業は、まいり財団共同基金および新潟市社会福祉協議会委員会費をもとに実施しております。





ご清聴ありがとうございました。

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業 進捗状況報告

1. 実績 (R1～R3.11)

(1) ワーキンググループ

R1. 5. 24 (第一回) R1. 7. 29 (第二回) R1. 10. 1 (第三回) R2. 1. 29 (第四回)
R2. 6. 2 (第四回) R2. 11. 10 (第五回) R3. 2. 22 (第六回) R3. 7. 1 (第七回)

(2) ヒアリング・アンケート

R1. 6 市社協 (緊急情報キット) R1. 6 市医師会 (SWAN ネット)
R1. 6 救急課 (救急アクションカードほか) R1. 10 市内全救急隊アンケート
R1. 11 西消防署 R1. 11～R2. 2 西区高齢者施設
R1. 12 西区 4 包括支援センター R2. 6～7 西区救急 5 病院 R2. 7 西消防署

(3) 事業説明・意見交換会等

R1. 9 市居宅介護支援事業者連絡協議会 R1. 10 西区救急 5 病院連携実務担当者
R1. 11 西区救急 5 病院経営管理層・看護部長・連携実務担当者
R2. 1 赤塚・坂井輪圏域学習会
R1. 6～R2. 1 中央区ケア会議、ケア会議作業部会 (計 3 回)
R2. 6、R3. 3 西区救急 5 病院連携実務担当者 R2. 8 西区介護老人保健施設
R3. 2 西区特養・ショート (web)
R3. 5～R3. 6 西区対象施設 (特養・老健・ショート) R3. 6 西消防署
R3. 7 市居宅介護支援事業所各区世話人
R3. 10 意見交換会 (施設)、事業説明会 (居宅介護支援事業所&包括センター)
R3. 11 事業・操作説明会 (病院・消防署) R3. 11 事業説明会 (西区訪問看護 ST)

(4) 意思決定支援研修会

R3. 5 意思決定支援研修会 (講師: 坂井さゆり先生、273 人参加)

2. 今後の予定 (R3. 11～R4. 3)

(1) ワーキンググループ

R3. 12. 10 (第 8 回) R4. 2 月 (第 9 回)

(2) にいがた救急連携シート (SWAN ネット QQ)

R3. 11 下 ICT ツール (タブレット) 貸与

(3) 相談援助職向け意思決定支援研修会・・・別紙参照

R3. 12. 14 (プレセミナー)、R4. 1～R4. 4 (シリーズ研修)

(4) 医療と介護の市民講座・・・別紙参照

R3. 12. 4、R3. 12. 18

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業スケジュール <R3年度>

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
救急連携シート (紙/ICT)																
意思決定支援研修																
市民ワークショップ																
ワーキング																
その他 ヒアリング 意見交換会等																

●SWANネットへデータ取込 →
●11/下タブレットを病院+西消防署へ納品

●5/12意思決定支援研修会@zoom
○12/14意思決定支援研修会
(プレセミナー)@zoom
シリーズ研修(ハイブリッド)
○1/15 ○2/19 ○3/12 ○4/16

○①12/4 ○②12/18
(受付10/21~11/16)

●第1回(7/1) ○第2回(12/10) ○第3回(2/下)

●5/18~7/6 西区対象施設(特養・老健・ショート)
●6/3 西消防署
●6/17~7/19救急病院(西区5+西蒲中央)
●7/14 ケアマネ各区幹事 ●10/13 施設・病院
●7/30 西区包括・居宅CM ●10/14 西区CM・包括
●10/下~11/上西区5包括訪問
●11/上~11/中 西区&西蒲区6病院訪問
○11/中~12/末 西区居宅事業所訪問

- ・施設入所者(利用者)情報(シート)収集
- backlog
- ・居宅ケアマネ未説明30/60事業所
- ・西蒲消防署事業協力依頼

新潟市 在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業

新潟市保健衛生部地域医療推進課
Regional Medical Care Promotion Division



在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業 (R2～R4年度)

1 目的

高齢化の進展に伴い今後も増え続ける救急搬送需要に対応するため、

「**にいがた救急連携シート**」を作成し、救急時に本人、家族、救急隊、医療ケアチームと共有・活用することで、円滑な救急搬送につなげる。あわせて、普段から治療やケア、過ごし方に関する希望を家族などと共有しておくことの大切さについて、理解と実践を促し、本人の意思が尊重されやすい医療提供体制の強化につなげる。

2 事業

- ・ **にいがた救急連携シートの作成・運用**
- ・ (仮称) ACP市民講座
- ・ 相談援助職向け意思決定支援研修会

にいがた救急連携シート

(1) 目的 (シートの趣旨)

市民一人ひとりが、将来の意思決定能力の低下に備えて、人生の最終段階において、どこで過ごし、どのような医療を受けたいか、元気なときから考えていけるようシートを作成し、繰り返しの話し合いを促す。

既往歴、持病、服薬状況、緊急時連絡先、かかりつけ医情報のほか、今後の治療や療養に関わる本人の意向を含めた情報シートを作成し、救急時に関係者間で共有・活用する。

(2) 利用 (配布) 対象者

令和3年度 西区の施設入所・利用者 (特養・老健・短期入所)

令和4年度 西区在住の要支援・要介護認定者

※上記対象者のうち、当該事業の説明を聞いた上で、自らの情報の登録および共有に関する同意した者とする。

(3) 運用方法

- 生活相談員、ケアマネジャー等が紹介、説明、記入支援を行う
- 救急隊、救急告示病院、当人に関わる医療介護従事者が情報共有 (閲覧) 可能とする
- 初回登録後は基本的に一年に一度 (対象者の誕生日)、情報の見直しを行い、変更があった場合に更新登録することとする。病状や意向が変化した際にはその都度見直し (更新) を行う。



にいがた救急連携シート



新潟市では、皆さまにあらかじめ治療中の病状やかかりつけ医療機関、緊急連絡先などを記入してもらった「にいがた救急連携シート」を作成しました。緊急事態発生時や医療機関、救急隊などの関係者が、このシートに記載の情報を共有することで、「もしもの時」に、速やかな救急搬送や搬送先医療機関でのスムーズな対応につなげることを目的としたものです。記載内容に変更があった場合は、そのつど記載してください。

※1/新潟市在宅医療・介護連携協議会 ※2/新潟市保健衛生部地域医療推進課

(1) 基本情報

ふりがな		年齢	歳
氏名		性別	男・女
生年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日		
住所	新潟市 区		
連絡先電話番号			

(2) 医療の情報

現在治療中の病状やケガ	<input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> 透析(腎不全) <input type="checkbox"/> その他の疾患()
過去にかかった主な病状	
現在の内服薬(お薬手帳の写し可)	
アレルギー	無・有(記入:)
かかりつけ医療機関	医療機関名 診療科名
※おおよそ1年以内に受診歴のあるなどの病院・診療所	医療機関名 診療科名
	医療機関名 診療科名

(3) 連絡をとってほしい人

氏名	肩柄	住所	緊急時連絡先

(4) かかわりのある医療・福祉・介護の関係者

機関名	担当者	緊急時連絡先	24時間対応
かかりつけ医			
訪問看護ステーション			
ケアマネジャー			
生活相談員			
地域包括支援センター			
その他()			
その他()			

(5) 日常の体の動き

機能障害	①麻痺	●力が入らず動かせない <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位・程度:) ●感覚がない <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位・程度:) <input type="checkbox"/> 触ってもわからない <input type="checkbox"/> 熱さを感じない <input type="checkbox"/> 痛みを感じない
	②拘縮	●関節が固まって動きにくい <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:) ●関節が固まって動かない <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:)
	③欠損	●生まれながら/事故や病気などで切断したことにより体の一部が欠けている <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:)
	④視覚	<input type="checkbox"/> 裸眼で見える <input type="checkbox"/> 眼鏡等の利用で見える <input type="checkbox"/> 眼鏡等をしても見えにくい/見えない
活動	⑤聴覚	<input type="checkbox"/> 聞こえが悪い(□みぞ □むだり) → 補聴器の利用 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
	①歩行	<input type="checkbox"/> 自分ひとりで行ける <input type="checkbox"/> 支えがあればできる <input type="checkbox"/> 自分ではできない
食事	②補助具など	<input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> シルバーカー <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> その他()
	①介助	<input type="checkbox"/> 自分ひとりで行ける <input type="checkbox"/> 支えがあればできる <input type="checkbox"/> 自分ではできない
排泄(尿/便)	②方法	<input type="checkbox"/> くち(□)で食べる <input type="checkbox"/> 経管栄養 → <input type="checkbox"/> 経鼻(鼻からの管) <input type="checkbox"/> 胃ろう <input type="checkbox"/> 腸ろう <input type="checkbox"/> その他()
	①形態	<input type="checkbox"/> 普通食 <input type="checkbox"/> きざみ食 <input type="checkbox"/> その他()
精神状態	①介助	<input type="checkbox"/> 自分ひとりで行ける <input type="checkbox"/> 支えがあればできる <input type="checkbox"/> 自分ではできない
	②方法	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> ポータブルトイレ <input type="checkbox"/> 尿器 <input type="checkbox"/> オムツ <input type="checkbox"/> 留置カテーテル <input type="checkbox"/> ストーマ <input type="checkbox"/> その他()
特別な医療	①意思疎通	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない
	②意識レベル	<input type="checkbox"/> はっきりしている <input type="checkbox"/> ぼんやりしている <input type="checkbox"/> 刺激しないと醒り込む
	③自傷・他害のおそれ	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(内容:)
	①ドレーン <input type="checkbox"/> 挿管 <input type="checkbox"/> シャント <input type="checkbox"/> ペースメーカー <input type="checkbox"/> 体内金属物 ②その他(詳細)	

(6) その他、特記事項

上記(1)から(6)の情報について、緊急事態発生時、搬送先の医療機関、救急隊、新潟市、新潟市医師会ほか「4かかわりのある医療・福祉・介護の関係者」が、本シート及び新潟市が管理するICT情報共有ツールで情報共有し、救急医療に活用することに同意の上、作成しました。	本人氏名
	代理作成者・作成支援者等
	作成日 年 月 日
	氏名
	本人との関係

このシートはご自身で治療方法等を判断することが困難な場合に、ご自身の意思内容として、ご家族や医療・ケアチームにおいて最大限尊重いたします。なお、何回も書き直すことができます。

1 もし、生きることができる時間が限られているとしたら、あなたにとって大切なことはどんなことですか？(複数回答可)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 家族や友人のそばにいること | <input type="checkbox"/> 少しでも長く生きること |
| <input type="checkbox"/> 仕事や社会的役割が続けられること | <input type="checkbox"/> 好きなことができること |
| <input type="checkbox"/> 身の回りのことが自分でできること | <input type="checkbox"/> ひとりの時間が保てること |
| <input type="checkbox"/> できる限りの治療が受けられること | <input type="checkbox"/> 自分が経済的に困らないこと |
| <input type="checkbox"/> 家族の負担にならないこと | <input type="checkbox"/> 家族が経済的に困らないこと |
| <input type="checkbox"/> 今はわからない | |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

2 もし、治らない病気になったり、気持ちを伝えられなくなったら、どこで、どんな治療やケアを受けてすごしたいですか？

- ① 痛みや苦痛について
- | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> できるだけおさえてほしい | <input type="checkbox"/> 自然のままがいい | <input type="checkbox"/> 今はわからない |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |
- ② すごしたい場所
- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自宅 | <input type="checkbox"/> 病院 | <input type="checkbox"/> 施設 | <input type="checkbox"/> 今はわからない |
| <input type="checkbox"/> その他() | | | |

3 もし、治療やケアについて、自分で決められなくなったら、代わりに誰に話しあってほしいですか？

- | | | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 配偶者(夫・妻) | <input type="checkbox"/> 子ども・孫 | <input type="checkbox"/> きょうだい | <input type="checkbox"/> 親戚(姪・甥など) | <input type="checkbox"/> 友人・知人 |
| <input type="checkbox"/> かかりつけ医 | <input type="checkbox"/> 頼める人はいない | <input type="checkbox"/> その他() | | |

4 これらの選択を希望した思いや理由を書いてみましょう

このシートはご自身で治療方法を判断することが困難な場合に、ご自身の意思内容として、ご家族や医療・ケアチームにおいて最大限尊重いたします。なお、何回も書き直すことができます。

もしも

のときのことを 考えたことがありますか？



誰もが、いつ、命に関わる大きな病気やケガをするかわかりません。ですが、もしものときに受けたい医療や介護について、自分で考えたり、家族と話しあったことがある人は少ないようです。もしものときに慌てないよう、元気な時から、家族や大切な人と思いを共有しておくことは大切です。このシートをきっかけに、ご自身で、また、家族や友人、大切な人と考え、くりかえし話しあってみませんか？

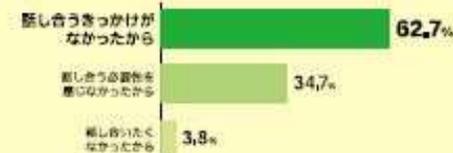
人生の最終段階における医療・ケアなどの話し合いについて

(※調査対象は、新潟市在住の65歳以上の高齢者(1,466名))

家族や医療介護関係者との
どのくらい話しあったことがあるか？



話し合ったことがない理由は？



もしものときに受けたい医療、受けたくない医療ってなんだろう？

考えたことないけど、ちょっと考えてみようかな……

最期まで自分らしい生き方をさせてあげたい。

あなたと、あなたの大切な人のために話しあってみませんか？



にいがた救急連携シートの運用イメージ（令和3～4年度・西区）

特養・老健・ショートステイ
ケアマネジャー／地域包括支援センター



※施設では到着までの間、
「アクションカード」を活用して対応する。

消防局（指令管制センター）



①119要請
消防に対し、SWAN
ネット対象者であるこ
とを伝達する。
（患者のNoまたは氏
名・生年月日情報等）

②出動指示
指令管制センターは
救急隊に対し、SW
ANネット対象者で
あることを伝達す
る。（以下、①と同
じ）



救急隊

④到着・処置
救急隊が施設到着後、SW
ANネット情報を基に、施
設従事者等と詳細を共有
し、搬送候補先へ連絡。

⑤搬送確認
救急隊は、医療機関に対
し、SWANネット対象者
であることを伝達する（②
と同じ）

SWANネットQQ



③患者情報取得
救急隊員は、SWANネッ
トへアクセスし、患者情報
を取得する。

⑥患者情報取得
医療機関は、SWANネッ
トへアクセスし、患者情報
を取得する。

医療機関
（救急受入病院）

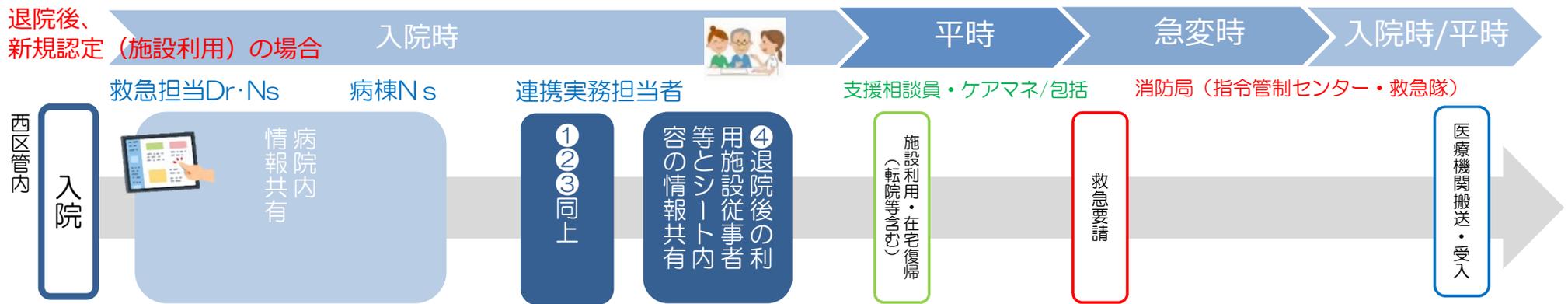
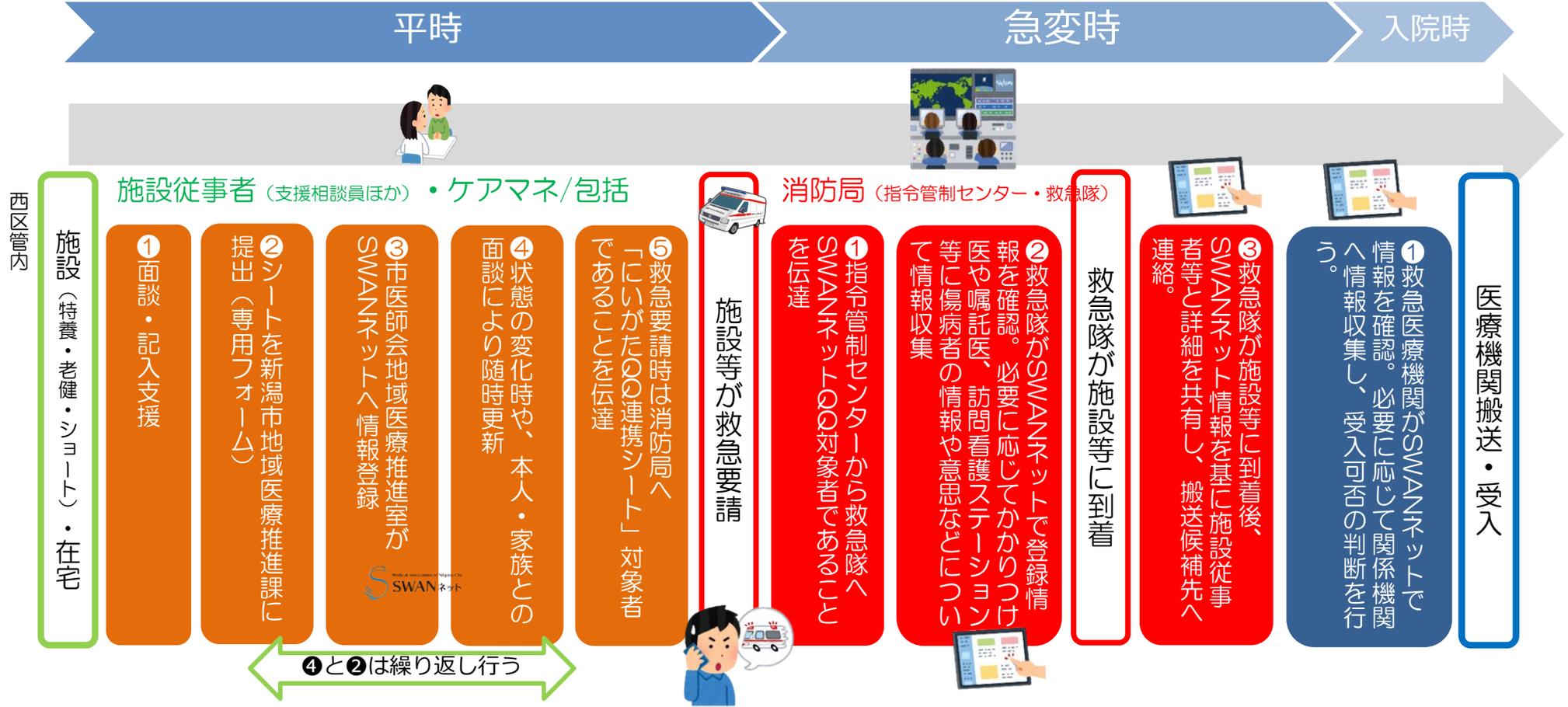


⑦患者受入れ



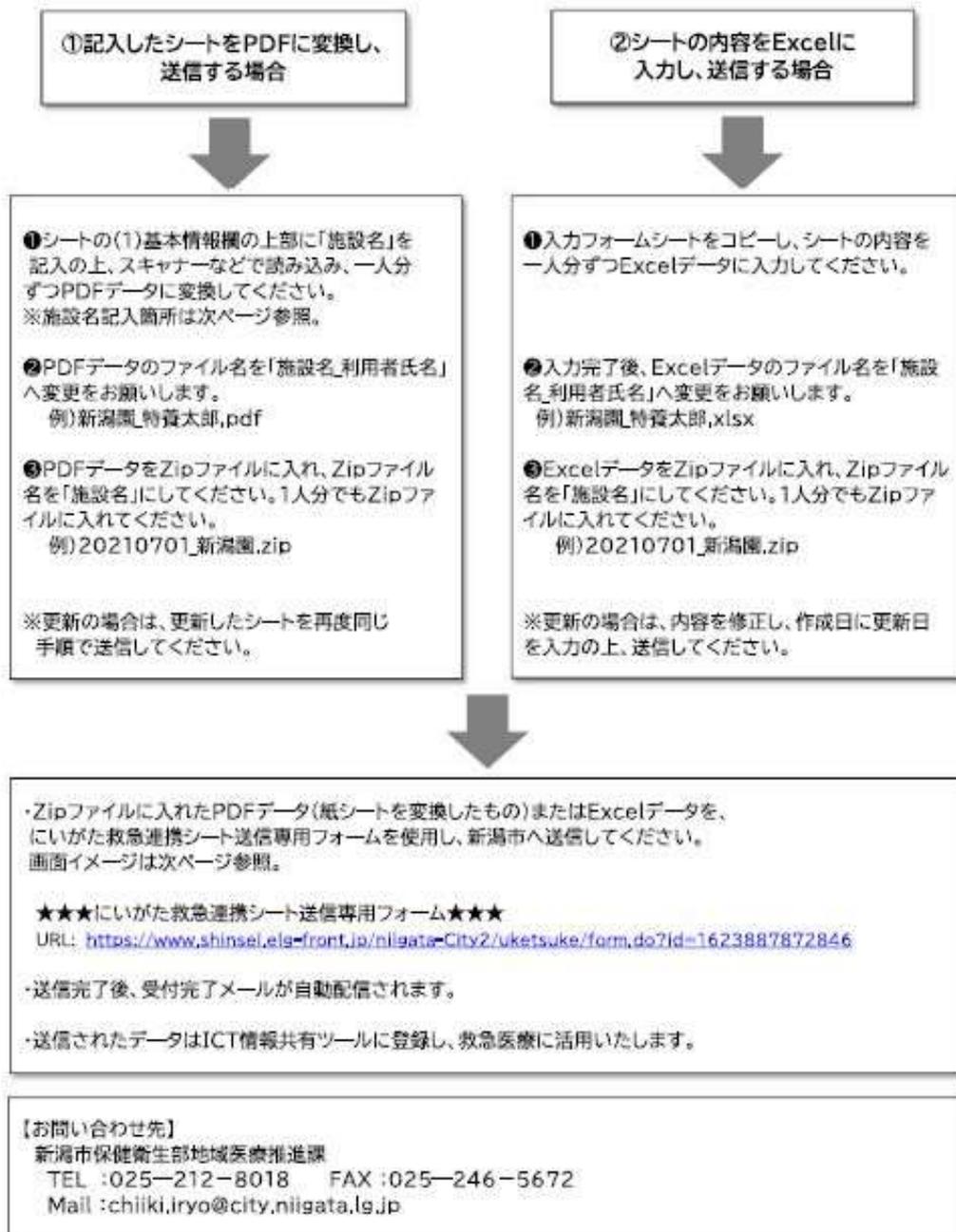
にいがた救急連携シートの運用イメージ（令和3～4年度・西区）

R3.2.1作成



にいがた救急連携シートの運用イメージ（令和3～4年度・西区）

にいがた救急連携シート取り扱いフロー



シートをそのまま送信する場合、(1)基本情報欄の上部に施設名をご記入ください。

にいがた救急連携シート

(1) 基本情報

氏名	性別	年齢	性別	年齢
姓	姓	男	女	
生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月	日
生 所	新潟市	区		
連絡先電話番号				

【参考】送信専用フォーム画面イメージ

【テスト用】にいがた救急連携シート送信専用フォーム

送信内容の確認 ※送信は完了していません。

以下の入力内容をご確認ください。
よろしければ「送信」ボタンを押してください。
入力内容に間違いがある場合は、「修正する」ボタンを押し、再度入力してください。
横線が引かれた文字が入力されている場合は、「?」のように表示されていますので、修正してください。

申請日	令和3年6月17日
団体・法人名	新潟県
職種・部署名	介護支援専門員 役職または職種
お名前	特養太郎 施設担当者名
連絡先	025-123-4567
メールアドレス	パソコン用 chiiki.iryo@city.niigata.lg.jp スマートフォン用
にいがた救急連携シートの数値	20210617_新潟県.zip (26KB)
送信済	

施設連絡先

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業 (R2～R4年度)

1 目的

高齢化の進展に伴い今後も増え続ける救急搬送需要に対応するため、

「**にいがた救急連携シート**」を作成し、救急時に本人、家族、救急隊、医療ケアチームと共有・活用することで、円滑な救急搬送につなげる。あわせて、普段から治療やケア、過ごし方に関する希望を家族などと共有しておくことの大切さについて、理解と実践を促し、本人の意思が尊重されやすい医療提供体制の強化につなげる。

2 事業

- ・ にいがた救急連携シートの作成・運用
- ・ **(仮称) ACP市民講座**
- ・ 医療・介護専門職（相談援助職）向け意思決定支援研修会



日時

①②のいずれか一方にお申込みください

- ① 12月 4日 (土) 14:30～16:00 定員：会場80名+オンライン200名
講師：信楽園病院 脳神経内科部長 (医師) 下畑 光輝 氏
- ② 12月18日 (土) 14:30～16:00 定員：会場80名+オンライン200名
講師：済生会新潟病院 外科部長 (医師) 坪野 俊広 氏

会場

新潟市総合保健医療センター 2階 講堂 (中央区紫竹山3-3-11)

※この講座は、講師が遠隔地から講義を行うオンライン講座です。
会場での受講のほかに、自宅等からオンラインでの受講も可能です。

お申込み

受付期間 10月21日 (木) ～11月16日 (火)

下記のURLか右のQRコードから「かんたん申込」でお申込みください。

<https://www.shinsai.eig-front.jp/niigata-city2/uketsuke/form.do?id=1632287934161>



オンライン受講に必要な「ログインIDとパスワード」は、開催2日前までにお申し込みいただいたメールアドレスあてに発行いたします。IDとパスワードが届かない場合は、下記までご連絡願います。

- ◆会場にて受講→新潟市役所コールセンター025-243-4894でも申込可能です。
受付時間/8:00～21:00 土日祝も受け付けます。
必要事項/申込日時(上記①②のいずれか)・代表者氏名・参加人数・代表者電話番号

お問い合わせ

新潟市保健衛生部地域医療推進課 TEL:025-212-8018 E-mail:chiiki.iryu@city.niigata.lg.jp

共催 新潟市保健衛生部地域医療推進課
在宅医療・介護連携ステーション西(済生会新潟病院)/在宅医療・介護連携ステーション西第二(信楽園病院)

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業 (R2～R4年度)

1 目的

高齢化の進展に伴い今後も増え続ける救急搬送需要に対応するため、

「**にいがた救急連携シート**」を作成し、救急時に本人、家族、救急隊、医療ケアチームと共有・活用することで、円滑な救急搬送につなげる。あわせて、普段から治療やケア、過ごし方に関する希望を家族などと共有しておくことの大切さについて、理解と実践を促し、本人の意思が尊重されやすい医療提供体制の強化につなげる。

2 事業

- ・にいがた救急連携シートの作成・運用
- ・（仮称）ACP市民講座
- ・ **医療介護専門職（相談援助職）向け意思決定支援研修会**

西区の医療・介護専門職対象

意思決定支援オンライン研修会

～住み慣れた場所で生活し続けることができる地域づくりに向けて～
プレセミナー＆4回シリーズ研修

高齢化が進むなか、必要な医療やケアを受けながら住み慣れた地域で暮らし続けたいという本人の希望をいかに叶えるかが重要となっています。近年、特に、高齢者の救急搬送の場面において、本人の意思確認が困難なために、本人の思いに反した医療が行われる可能性が指摘されています。

本市では、本人と家族、在宅医療・介護関係者、救急医療関係者間の情報共有をスムーズにする仕組みを考案し、令和3～4年度、西区でモデル運用します。

このたび、事業の一環として、国が策定した「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づくアドバンス・ケア・プランニングを実践できる人材の育成を目指した研修会を開催します。国ガイドライン策定メンバーである講師をお招きし、ガイドラインについての基本理解や、事例を通じた実践的な相談援助技術、意思決定支援について学んでいきます。

4割を超える新潟市民が、人生の最期を「自宅」で迎えたいと望んでいます。住み慣れた場所、いたいと思うところにいることができる地域づくりに向けて、ともに考えていきませんか。

	日時	会場	対象
プレセミナー	12月14日(火) 18:00～19:30	Zoomオンライン	西区で勤務する医療・介護の専門職どなたでも 【定員200名】
シリーズ研修 第1回	1月8日(土) 9:00～11:30	新潟市総合保健 医療センター講堂 (中央区燕竹山3-3-11) ハイブリット形式により、 講義やグループワーク、 ロールプレイ等の演習 を通して実践的に学び ます。	西区で勤務する 医療・介護の専門職 (相談援助職) 4回すべて受講可能な方 【定員24名】 ※シリーズ研修を受講さ れる方はプレセミナーも 参加してください。
第2回	2月19日(土) 9:00～11:30		
第3回	3月12日(土) 9:00～11:30		
第4回	4月16日(土) 9:00～11:30		

講師 田村里子さん (一社)WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部

厚生労働省「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」策定メンバー。WITH医療福祉実践研究所では、グローバルな経験と視野をもとに人に添うことのさらなる支援の高みを目指した様々なプログラムを計画、対人援助職の技術を多面的に変える活動を行っている。

▶申込 以下URLか、QRコードから11月23日(火・祝)までお申込みください。
<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-city2/uketsuke/form.do?id=1635137190527>
 ID・パスワードはお申し込みいただいたメールアドレスあてに発行します。



主催(お問い合わせ)

新潟市保健衛生部地域医療推進課 TEL : 025-212-8018 FAX : 025-246-5672

E-mail : chiiki.iryoo@city.niigata.lg.jp

参加
無料

にいがた救急連携シート

現状・今後の見通し

本市の救急搬送状況

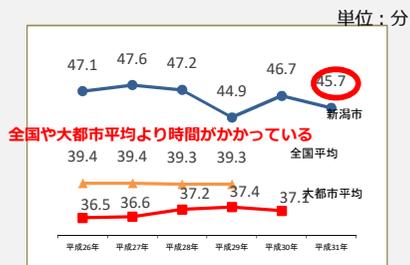
1 救急搬送者数に占める高齢者の割合

2015年	→	2018年
57.3%	3.4ポイント増	60.7%

2 救急搬送件数将来予測

2017年	→	2040年
33,807件	17.7%増	39,799件

3 病院搬送時間の推移



4 「人生の最終段階における医療・ケアなどの話し合いを進めることについて」

賛成 89.2%	話し合ったことはない 45.6%
反対 5.2%	一応話し合っている 44.1%
わからない 5.6%	詳しく話し合っている 5.0%

「新潟市中央区自らが望む人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査結果報告書」
 (中央区に住民登録している満65歳以上の男女2,000人
 《回収数1,016件》令和元年7月実施、10月結果公表)

にいがた救急連携シート

1 基本情報

ふりがな		年齢		歳
氏名		性別	男・女	
生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月	日
住所	新潟市 区			
連絡先電話番号				

2 医療の情報

現在治療中の病気やケガ	<input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> その他の疾患()
過去にかかった主な病気	<input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> その他の疾患()
現在の内服薬(お薬手帳)	
アレルギー	無・有(記入:)
かかりつけ医療機関	医療機関名 診療科名
※おおよそ1年以内に受診歴のあるなどの病院・診療所	医療機関名 診療科名

3 連絡をとってほしい人

氏名	続柄	住所	緊急時連絡先

4 かかわりのある医療・福祉・介護の関係者

氏名	機関名	担当者	緊急時連絡先	24h対応
かかりつけ医				
訪問看護ST				
ケアマネジャー				
生活相談員				
地域包括支援センター				

5 ADL (日常生活動作)

食事	①介助内容 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助(内容:)
	②摂取状態 <input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管(口経鼻口経腸口胃瘻口腸瘻口その他())
	③食事形態 <input type="checkbox"/> 普通食 <input type="checkbox"/> その他()
排泄	①介助内容 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助(内容:)
	②方法 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> ポータルトイレ <input type="checkbox"/> 尿器 <input type="checkbox"/> オムツ <input type="checkbox"/> 留置カテーテル <input type="checkbox"/> ストーマ
活動	①移動方法 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助(内容:)
	②方法 <input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> シルバーカー <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> その他()
機能障害	①麻痺 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:)
	②拘縮 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:)
	③欠損 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(部位:)
	④視覚 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(口近視口遠視口乱視口老眼口その他:)
	⑤聴覚 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(口みき <input type="checkbox"/> ひだり)
精神状態	①意思の疎通 <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない
	②意識レベル <input type="checkbox"/> 清明 <input type="checkbox"/> JCS()
	③危険行為 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(内容:)
身体状況	<input type="checkbox"/> ドレーン <input type="checkbox"/> 褥瘡 <input type="checkbox"/> シヤント <input type="checkbox"/> ベースメーカー <input type="checkbox"/> 体内金属物
	<input type="checkbox"/> その他(詳細:)

6 これからの治療や過ごし方について・・・本人の意思や家族等の希望

◆もし、治らない病気になったり、気持ちを伝えられなくなったら、どこで、どんな治療やケアを受けてほしいですか？

(1) 痛みや苦痛について
 できるだけおさえてほしい 自然のままがいい 今はわからない
 その他()

(2) 最後を迎えたい場所
 自宅 病院 施設 今はわからない その他

期待される成果

【救急搬送時間の短縮】

救急時の情報共有が強化され、救急搬送時間の短縮につながる(現場滞在時間や医療機関引渡し時間の短縮)。

【速やかなADL情報の伝達】

搬送先医療機関において、日常の心身状況を受入時に把握することで、現状を速やかに評価し適切な治療をスムーズに開始できる。

【意思共有についての理解・実践】

これからの治療や過ごし方について話し合っておくことで、本人の意思が尊重されやすい医療や介護が受けられる。

R5以降 全市展開

R4 対象者拡大

R2～R3 西区におけるモデル事業

- ・シート内容・運用方法等の検討
- ・相談援助職（専門職）意思決定支援研修会の開催
- ・ACP市民講座の開催
- ・にいがた救急連携シートの運用開始 （R3.9月～）

R1 在宅医療・救急医療連携WGほか関係機関等との協議

- ・高齢者の救急搬送に関する課題の抽出
（救急医療機関・高齢者等入所施設・救急隊等関係機関との意見交換会の開催）
- ・先進事例や既存関連ツールの調査・把握
- ・シート内容・運用方法等の検討
- ・施設、救急医療機関、救急隊へのアンケート調査



NET4U Q
Q

說明資料



Straw Hat

SWANネットとSWANネットQQの関係

SWANネット～日常的に利用～

医療機関

■医療情報

- ・患者基本情報
- ・アレルギー
- ・感染症
- ・既往歴
- ・検査結果
- ・処方

日常的に医療従事者、介護従事者が利用できる



介護事業所

■介護情報

- ・ケアに関する情報 (身寄り・親族・担当ケアマネ等)
- ・にいがた救急連携シート (ACP情報患者基本情報)

招待と承諾による情報共有設定がなされた患者情報のみ閲覧することが可能です。

にいがた救急連携シート

※詳しくは、事前にあらかじめ介護サービスの提供を行う医療機関、緊急連絡先などに記入していただく「にいがた救急連携シート」を提出してください。緊急連絡先や介護機関、緊急連絡先の電話番号、このシートに記載の情報を活用することで、いざという時に、速やかな緊急対応や連携が実現でき、安心・安全に過ごせることを目指しています。

① 基本情報

フリガナ	年齢	歳
氏名	性別	男・女
生年月日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日
住居	都道府県	
連絡先電話番号		

② 医療の情報

現在治療中の病気やケガ 高血圧 糖尿病 心臓病 脳血管障害 透析(腎不全) その他の病

過去にかかった主な病気

現在の内服薬(処方された薬)

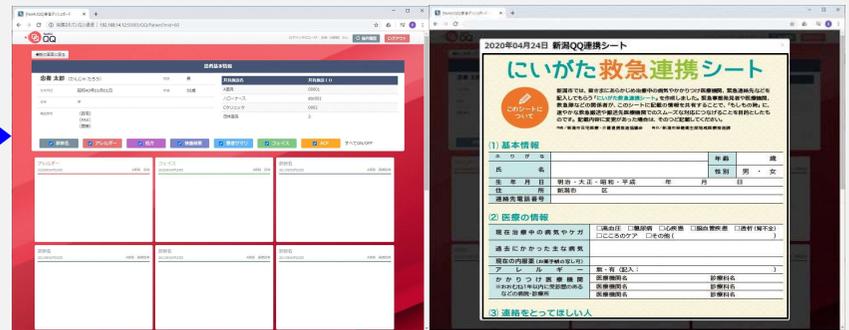
薬名	量	頻度(回数)
かかりつけ医療機関	医療機関名	診療科名
かかりつけ介護機関	医療機関名	診療科名
かかりつけ訪問看護	医療機関名	診療科名

③ 連絡をとってほしい人

SWANネットQQ～救急搬送時に利用～

消防局 (救急車・指令管制センター) 病院 (救急外来)

救急搬送時に限られた特権ユーザーが利用できる



地域内で登録されたすべての患者を検索対象として、患者情報を閲覧することが可能です。

■救急搬送時参照機能

- ・セキュアなログイン機能
- ・地域内全患者検索機能
- ・対象患者の情報を俯瞰できるダッシュボード機能
- ・厳格なアクセスログ管理

システム運用イメージ

モデル事業
参加介護事業所

にいがた救急連携シート

1) 基本情報

2) 既往の病歴

3) 連絡先

4) かかりのある医療・介護・介護福祉サービスの提供状況

救急連携シート
に記入して送付

新潟市

新潟市医師会

SWANネットへの
登録を委託

STEP1 患者登録
STEP2 PDFアップロード

Net4U

プロフィール

氏名: 青森 陸奥

年齢: 55歳

性別: 男性

住所: 新潟県新潟市

新潟市内の
すべての患者を
検索して
閲覧可能

SWANネットQQモデル事業
対象患者であることを連絡

新潟市消防局

病院救急外来

救急搬送時にタブレット
端末で閲覧できる

SWANネットQQ

患者情報

患者名: 志賀 太郎

性別: 男

年齢: 55歳

住所: 新潟県新潟市

緊急連絡先: 025-252-XXXX

既往の病歴

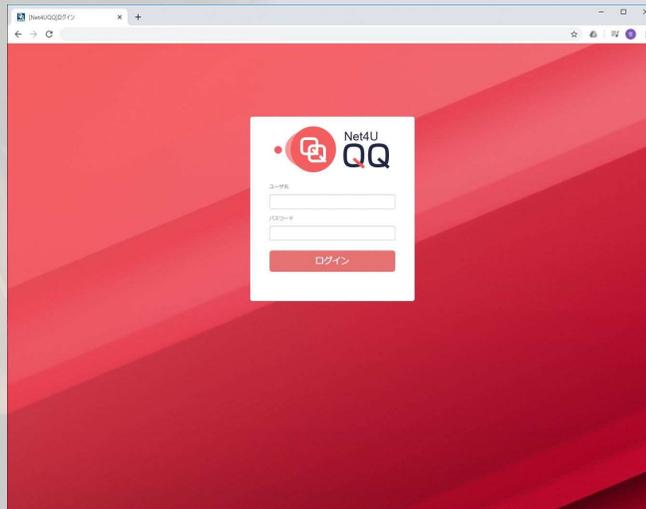
1) 基本情報

2) 既往の病歴

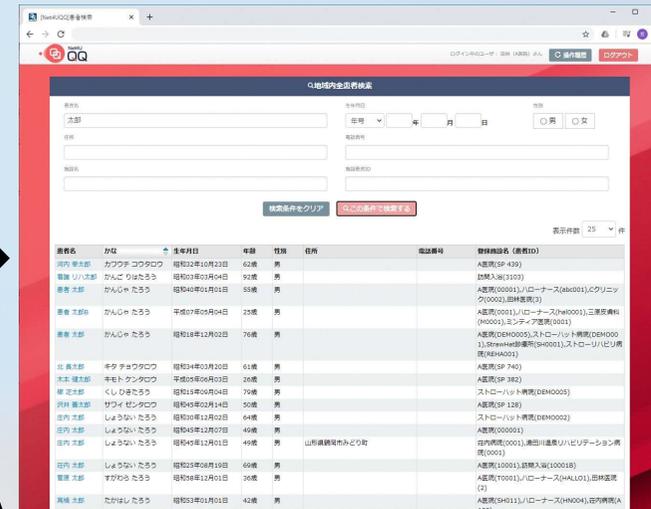
3) 連絡先

4) かかりのある医療・介護・介護福祉サービスの提供状況

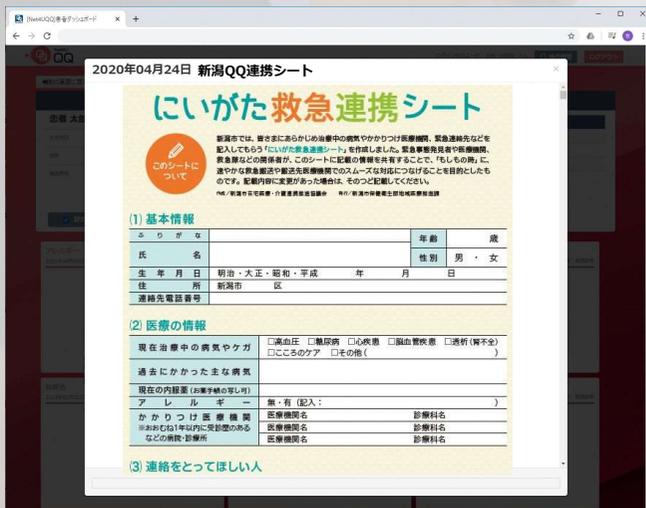
① IDとパスワードでログイン



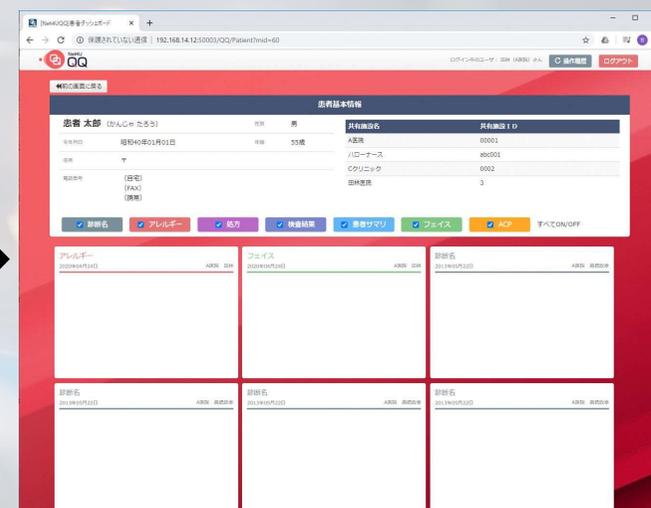
②名前や住所等で地域内の全患者を検索



③最新の救急連携シートを表示



④救急連携シート以外の情報も参照可能



[Net4UQQ]ログイン

← → ↻

☆ 📁 ☰

限られたユーザーのみ
ログインすることができます。



Net4U
QQ

ユーザー名

パスワード

ログイン

[Net4UQQ]患者検索

NetMU QQ

ログイン中のユーザー: 田林 (A医師) さん

操作履歴 ログアウト

地域内全患者検索

患者名: 太郎

生年月日: 年号 [] 年 [] 月 [] 日

性別: 男 女

住所: []

電話番号: []

施設名: []

施設患者ID: []

検索条件をクリア

この条件で検索する

表示件数 25 件

患者名	かな	生年月日	年齢	性別	住所	電話番号	登録施設名 (患者ID)
河内 幸太郎	カフウチ コウタロウ	昭和32年10月23日	62歳	男			A医院(SP 439)
看護 リハ太郎	かんご りはたろう	昭和03年03月04日	92歳	男			訪問入浴(3103)
患者 太郎	かんじゃ たろう	昭和40年01月01日	55歳	男			A医院(00001),ハローナース(abc001),Cクリニック(0002),田林医院(3)
患者 太郎B	かんじゃ たろう	平成07年05月04日	25歳	男			A医院(0001),ハローナース(hal0001),三原皮膚科(M0001),ミンティア医院(0001)
患者 太郎	かんじゃ たろう	昭和18年12月02日	76歳	男			A医院(DEMO005),ストローハット病院(DEMO001),StrawHat診療所(SH0001),ストローリハビリ病院(REHA001)
北 長太郎	キタ チョウタロウ	昭和34年03月20日	61歳	男			A医院(SP 740)
木本 健太郎	キモト ケンタロウ	平成05年06月03日	26歳	男			A医院(SP 382)
榊 正太郎	くし ひきたろう	昭和15年09月04日	79歳	男			ストローハット病院(DEMO005)
沢井 善太郎	ザワイ センタロウ	昭和45年02月14日	50歳	男			A医院(SP 128)
庄内 太郎	しょうない たろう	昭和30年12月02日	64歳	男			ストローハット病院(DEMO002)
庄内 太郎	しょうない たろう	昭和45年12月07日	49歳	男			A医院(000001)
庄内 太郎	しょうない たろう	昭和45年12月01日	49歳	男	山形県鶴岡市みどり町		荘内病院(0001),湯田川温泉リハビリテーション病院(0001)
荘内 太郎	しょうない たろう	昭和25年08月19日	69歳	男			A医院(10001),訪問入浴(10001B)
菅原 太郎	すがわら たろう	昭和58年12月01日	36歳	男			A医院(T0001),ハローナース(HALLO1),田林医院(2)
高橋 太郎	たかはし たろう	昭和53年01月01日	42歳	男			A医院(SH011),ハローナース(HN004),荘内病院(A001)

氏名、住所等により地域内のすべての患者を検索することができます。

× ボタンで閉じるとダッシュボードで他の患者情報を参照できます。

最新の救急連携シートが表示されます。

2020年04月24日 救急連携シート

にいがた救急連携シート



新潟市では、皆さまにあらかじめ治療中の病気やかかりつけ医療機関、緊急連絡先などを記入してもらい「にいがた救急連携シート」を作成しました。緊急事態発見者や医療機関、救急隊などの関係者が、このシートに記載の情報を共有することで、「もしもの時」に、速やかな救急搬送や搬送先医療機関でのスムーズな対応につなげることを目的としたものです。記載内容に変更があった場合は、そのつど記載してください。

作成/新潟市在宅医療・介護連携推進協議会 発行/新潟市保健衛生部地域医療推進課

(1) 基本情報

ふりがな		年齢	歳
氏名		性別	男・女
生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月 日
住所	新潟市 区		
連絡先電話番号			

(2) 医療の情報

現在治療中の病気やケガ	<input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 心疾患 <input type="checkbox"/> 脳血管疾患 <input type="checkbox"/> 透析(腎不全) <input type="checkbox"/> こころのケア <input type="checkbox"/> その他()	
過去にかかった主な病気		
現在の内服薬(お薬手帳の写し可)		
アレルギー	無・有(記入:)	
かかりつけ医療機関	医療機関名	診療科名
※おおむね1年以内に受診歴のあるなどの病院・診療所	医療機関名	診療科名
	医療機関名	診療科名

(3) 連絡をとってほしい人

過去の救急連携シートを表示して、経緯を追うことができます。

[Net4UQQ]患者ダッシュボード

Net4U QQ ログイン中のユーザー: 田林 (A医院) さん 操作履歴 ログアウト

◀前の画面に戻る

患者基本情報

患者 太郎 (かんじゃ たろう)		性別	男	共有施設名		共有施設ID	
生年月日	昭和40年01月01日	年齢	55歳	A医院	00001		
住所	〒			ハローナース	abc001		
電話番号	(自宅) (FAX) (携帯)			Cクリニック	0002		
				田林医院	3		

診断名
 アレルギー
 処方
 検査結果
 患者サマリ
 フェイス
 救急
 すべてON/OFF

QQ連携シート

2020年04月24日 A医院 田林

フェイス

2020年04月24日 A医院 田林

診断名

2013年05月22日 A医院 高橋政幸

診断名

2013年05月22日 A医院 高橋政幸

診断名

2013年05月22日 A医院 高橋政幸

診断名

2013年05月22日 A医院 高橋政幸

パネル表示するデータ種別を絞り込むことができます。

SWANネットに登録された救急連携シート以外の情報も確認することが可能です。

新潟市在宅医療・介護連携推進事業
医療と介護の市民講座

ACPについて 一緒に考えてみませんか オンライン(zoom)講座

参加
無料

～ACP（アドバンス・ケア・プランニング）ってなに？～
もしものとき、どのような医療やケアを受けたいか、あるいは受けたくないのか、
また、どこで人生の最期を過ごしたいかなど、医療や介護の専門家から必要なサ
ポートを受けながら、家族や大切な人と、繰り返し話し合うことをACP
（アドバンス・ケア・プランニング）と言います。

日時

①②のいずれか一方にお申込みください

①12月4日（土）14：30～16：00 定員：会場80名+オンライン200名
講師：信楽園病院 脳神経内科部長（医師） 下畑 光輝 氏

②12月18日（土）14：30～16：00 定員：会場80名+オンライン200名
講師：済生会新潟病院 外科部長（医師） 坪野 俊広 氏

会場

新潟市総合保健医療センター 2階 講堂（中央区紫竹山3-3-11）

※この講座は、講師が遠隔地から講義を行うオンライン講座です。
会場での受講のほかに、自宅等からオンラインでの受講も可能です。

お申込み

受付期間 10月21日（木）～11月30日（火）

下記のURLか右のQRコードから「かんたん申込」でお申込みください。

<https://www.shinsei.elg-front.jp/niiigata-City2/uketsuke/form.do?id=1632287934161>



オンライン受講に必要な「ログインIDとパスワード」は、開催2日前までにお申込みいただいたメールアドレスあてに発行いたします。IDとパスワードが届かない場合は、下記までご連絡願います。

◆会場にて受講→新潟市地域医療推進課 025-212-8018でも申込可能です。
受付時間／8:30～17:15 月～金曜日、祝・祭日除く。
必要事項／申込日時（上記①②のいずれか）・代表者氏名・参加人数・代表者電話番号

お問い合わせ

新潟市保健衛生部地域医療推進課 TEL:025-212-8018 E-mail:chiiki.iryu@city.niigata.lg.jp

共催 新潟市保健衛生部地域医療推進課

在宅医療・介護連携ステーション西(済生会新潟病院)／在宅医療・介護連携ステーション西第二(信楽園病院)

意思決定支援オンライン研修会

～住み慣れた場所で生活し続けることができる地域づくりに向けて～
プレセミナー＆4回シリーズ研修

高齢化が進むなか、必要な医療やケアを受けながら住み慣れた地域で暮らしたいという本人の希望をいかに叶えるかが重要となっています。近年、特に、高齢者の救急搬送の場面において、本人の意思確認が困難なために、本人の思いに反した医療が行われる可能性が指摘されています。

本市では、本人と家族、在宅医療・介護関係者、救急医療関係者間の情報共有をスムーズにする仕組みを考案し、令和3～4年度、西区でモデル運用します。

このたび、事業の一環として、国が策定した「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づくアドバンス・ケア・プランニングを実践できる人材の育成を目指した研修会を開催します。国ガイドライン策定メンバーである講師をお招きし、ガイドラインについての基本理解や、事例を通じた実践的な相談援助技術、意思決定支援について学んでいきます。

4割を超える新潟市民が、人生の最期を「自宅」で迎えたいと望んでいます。住み慣れた場所、いたいと思うところにいることができる地域づくりに向けて、ともに考えていきませんか。

	日時	会場	対象
プレセミナー	12月14日(火) 18:00～19:30	Zoomオンライン	西区で勤務する医療・介護の専門職どなたでも 【定員200名】
シリーズ研修 第1回	1月8日(土) 9:00～11:30	新潟市総合保健 医療センター講堂 (中央区紫竹山3-3-11) ハイブリット形式により、 講義やグループワーク、 ロールプレイ等の演習 を通して実践的に学び ます。	西区で勤務する 医療・介護の専門職 (相談援助職) 4回すべて受講可能な方 【定員24名】 ※シリーズ研修を受講さ れる方はプレセミナーも 参加してください。
第2回	2月19日(土) 9:00～11:30		
第3回	3月12日(土) 9:00～11:30		
第4回	4月16日(土) 9:00～11:30		

講師 田村里子さん (一社)WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部

厚生労働省「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」策定メンバー。WITH医療福祉実践研究所では、グローバルな経験と視野をもとに人に添うことのさらなる支援の高みを目指した様々なプログラムを計画、対人援助職の技術を多面的に支える活動を行っている。

■申込 以下URLか、QRコードから11月23日(火・祝)までお申込みください。

<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-City2/uketsuke/form.do?id=1635137190527>

ID・パスコードはお申し込みいただいたメールアドレスあてに発行します。



主催(お問い合わせ)

新潟市保健衛生部地域医療推進課 TEL: 025-212-8018 FAX: 025-246-5672

E-mail: chiiki.iryu@city.niigata.lg.jp

参加
無料